

Syllabus

令和5年度

授業要綱

学校法人 野又学園
函館歯科衛生士専門学校

1年生

.....

教 育 課 程

分野	教育内容	学科目	単位数	時間数	1年	2年	3年
基礎	科学的思考の基礎	生物	2	30	30		
		情報処理	2	30	30		
		衛生統計	1	15		15	
	人間と社会の理解	英語コミュニケーション	1	20	20		
		心理学Ⅰ	1	20	20		
		心理学Ⅱ	1	20		20	
		国語表現	2	30	30		
	小計		10	165	130	35	
専門基礎	人体(歯と口腔を除く)の構造と機能	解剖・生理	3	45	45		
		生化学	1	15	15		
	歯・口腔の構造と機能	口腔組織	1	15	15		
		口腔生化学	1	15	15		
		口腔解剖	2	30	30		
		歯牙解剖	1	15	15		
		口腔生理	1	15	15		
		疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	2	30	30	
	薬理学		2	30		30	
	微生物学		2	30	30		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	保健生態学Ⅰ	2	30	30		
		保健生態学Ⅱ	3	45		15	30
		衛生行政	1	15			15
		社会福祉	1	15			15
小計		23	345	240	45	60	
専門	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論	1	15	15		
		歯科医療倫理	1	15		15	
	臨床歯科医学	保存修復	1	20	20		
		歯内療法	1	20	20		
		歯周疾患	1	30	30		
		放射線	1	30		30	
		歯科補綴	1	30		30	
		矯正歯科	1	30		30	
		小児歯科	1	20		20	
		口腔外科	2	40		40	
		障がい者歯科	1	15		15	
		高齢者・有病者歯科	1	30		30	
	歯科予防処置論	口腔保健管理Ⅰ	5	200	200		
		口腔保健管理Ⅱ	4	160		160	
	歯科保健指導論	口腔保健管理Ⅲ	2	80			80
		栄養指導	1	30			30
		摂食嚥下	1	15		15	
		口腔リハビリテーション	1	20		20	
		地域包括ケア	1	15			15
	歯科診療補助論	診療補助Ⅰ	3	120	120		
		診療補助Ⅱ	2	80		80	
		診療補助Ⅲ	1	40			40
看護学		1	30		30		
介護概論		1	15		15		
介護技術		1	40		40		
臨地・臨床実習	臨地・臨床実習	20	900	90	360	450	
小計		57	2040	495	930	615	
選択必修	選択・必修分野	接遇・マナー	1	15	15		
		体育	1	40	40		
		歯科医療事務	2	40			40
		学級コミュニケーション	4	160	80	40	40
		課題研究	2	60		30	30
		総合講義	4	120			120
	小計		14	435	135	70	230
合計		104	2985	1000	1080	905	

※ 1単位・・・講義 15～30時間

実技・演習 40時間

実習 45時間

授 業 進 度 表

		1年前期				
科目	頁	4月	5月	6月	7月	8月
生 物	4					
情 報 処 理	5					
英語コミュニケーション	6-7					
心 理 学 I	8					
国 語 表 現	9					
解 剖 ・ 生 理	10-11					
生 化 学	12					
口 腔 組 織	13					
口 腔 生 化 学	14					
口 腔 解 剖	15					
歯 牙 解 剖	16					
口 腔 生 理	17					
病 理 学	18					
微 生 物 学	19					
保 健 生 態 学 I	20					
歯 科 衛 生 学 総 論	21					
保 存 修 復	22					
歯 内 療 法	23					
歯 周 疾 患	24					
口 腔 保 健 管 理 I	25-27					
診 療 補 助 I	28-29					
臨 地 ・ 臨 床 実 習	30					
接 遇 ・ マ ナ ー	31					
体 育	32					
学級コミュニケーション	33-34					

[illegible]

教科名	生 物	時 期	1年 前期	担当者	徳山 俊三	実務・ 一般
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講 義			
概 要						
・ 生命科学は生物を基礎にした学問である。生物では、生命はいかにして誕生したのか、生命の単位である細胞と組織・生殖と遺伝・環境と動物の反応などについて学ぶ。						
到達目標						
1 医療関係職種に共通する生物の基礎知識を系統的に学習し、歯科衛生士として生物学の知識と応用を体得して医療に携わることを目標とする。						
計画・(内容)						
1 生命とは何か (①生物には特徴がある ②生命をつくる物質)						
2 生命の誕生 (①原始の地球 ②化学進化と有機物の起源 ③原始細胞)						
3 生命の変遷 (①単細胞の生命体 ②核と細胞小器官の起源 ③生物の進化の仕組み)						
4 生物は細胞からできている (①細胞をつくる物質 ②生命の単位ー細胞)						
5 生物は細胞からできている (③細胞小器官 ④細胞のさまざまな活動)						
6 細胞の一生と個体の成り立ち (①細胞の一生 ②単細胞生物と多細胞生物)						
7 細胞の一生と個体の成り立ち (③ヒトの組織 ④ヒトの器官)						
8 生殖によって子孫をつくる (①生殖の方法 ②減数分裂)						
9 遺伝と遺伝子 (①遺伝とその法則 ②生命をつくる仕組み ③遺伝子を働かせる仕組み)						
10 発生して体をつくる (①発生の過程 ②発生の仕組み)						
11 刺激の受容と反応 (①動物は感覚器で刺激を受容する ②神経系による刺激の伝達)						
12 刺激の受容と反応 (③中枢神経と末梢神経 ④反応と効果)						
13 内部環境を保つ仕組み (①多細胞生物の細胞 ②ホルモンとその働き)						
14 内部環境を保つ仕組み (③自立神経とホルモン ④生体防御)						
15 動物の行動と変化 (①動物のさまざまな行動 ②ヒトの進化と未来)						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 生物学				評価方法 小テスト(50点) 筆記試験(50点) 合計100点		
留意事項 ・ 配布されるプリントは予習準備と復習となるため、必ず学習すること ・ 小テストにより復習の度合いを確認する						

教科名	情報処理	時 期	1年 前期	担当者	山崎 幸路	実務・ 一般
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講義 ・ 演習			
概 要						
情報処理操作の基礎として、パソコンの代表的なアプリケーションソフトであるマイクロソフトの「ワード」「エクセル」「パワーポイント」の操作技能を習得する。						
到達目標						
1 ソフトウェア使用上のルールとマナーを説明できる。 2 タッチメソッドを理解し、キーボード入力ができる。 3 ワードソフトを利用し、画像利用、地図作成などを含めた簡単なビジネス文書が作成できる。 4 パワーポイントソフトを利用し、画像、エクセルデータ等を素材とするプレゼンテーション資料が作成できる。 5 エクセルソフトを利用して、グラフ資料、いろいろな関数を利用した資料が作成できる。						
計画・(内容)						
1 基本操作(用語解説、セキュリティ、不具合対応、データ危機管理)、タッチメソッド習得、文書入力測定1 山崎						
2 Word操作(文字入力、表の編集) //						
3 Word操作(アイコン、イラストの挿入) //						
4 Word操作(実務的ビジネス文書、差し込み印刷) //						
5 Word操作(画像の挿入と編集、スクリーンショット) Word確認テスト1とフィードバック //						
6 Word操作(図形描画、スマートアート) //						
7 PowerPoint操作(PowerPointの基本操作、レイアウトの利用) Word確認テスト2とフィードバック //						
8 PowerPoint操作(テキストの書式設定、グラフや図形の挿入、スライドマスターの利用) //						
9 PowerPoint確認テストとフィードバック 文書入力測定2 //						
10 Excel操作(データ入力の手順、SUM関数) //						
11 Excel操作(グラフ作成、オートフィル、表の編集、AVERAGE関数) //						
12 Excel操作(条件の判定IF関数とネスト) //						
13 Excel操作(棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、グラフの編集) Excel確認テスト1とフィードバック //						
14 Excel操作(複合グラフ、ドーナツグラフ、列の検索VLOOKUP関数) 文書入力測定3 //						
15 Excel操作(条件付き書式、データベース入門、条件付き集計SUMIFS関数) Excel確認テスト2とフィードバック //						
教本・参考図書				評価方法		
30時間でマスター Word2019:実教出版(ISBN978-4-407-34836-1)				1 Word小テスト2回30点 2 PowerPoint小テスト1回20点		
30時間でマスター PowerPoint2019:実教出版(ISBN978-4-407-34839-2)				3 文書入力テスト3回20点 4 Excel小テスト2回30点		
30時間でマスター Excel2019:実教出版(ISBN978-4-407-34837-8)				合計100点		
留意事項						
1 配布された授業データとOfficeのログインを教室内PCで確認しておくこと。 2 配布データは復習用となるため、指示に従い講義時間外に操作練習すること。						

教科名	英語コミュニケーション	時 期	1年 後期	担当者	マイケル・クルックス Michael Crooks	実務・ <u>一般</u>
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義			
概 要						
This class will teach students common words, grammar, phrases, and expressions that they might use as a dental hygienist in Japan treating foreigners who can’t speak Japanese but can speak English. I want students to try their best to use English during class. I can understand Japanese, and I can speak a little bit, so don’t be afraid to talk to me if you need help. I want students to be completely confident in using what they know, rather than worrying about what they don’t know. Through massive repetition and focused study, I hope that students will never forget what they learn in this class.						
到 達 目 標						
Through this class, students will completely master a set of English vocabulary, grammar, and expressions that they might use in the following settings as a dental hygienist: Intake (on the phone and in-person) Treatment: (communication with the patient during their visit & very basic small talk) Ending the service (Next steps/scheduling next appointment)						
計 画 ・ (内 容)						
Except for the first class, every week there will be homework due, a quiz, and class activities to practice what we study. Your grade will be made up of the quizzes, activities, attendance, and any homework assignments. 1 – Class Introduction, Intake 2 – Quiz #1 ,Intake 3 – Quiz #2, Intake 4 – Quiz #3, Intake 5 – Class Activity: Dialogue 6 – Quiz #5, Treatment 7 – Quiz #6, Treatment 8 – Quiz #7, Treatment 9 – Quiz #8, Ending 10 – Class Activity: Dialogue -Based on how students are doing, some of the section lengths might change -Especially because the class is only one time a week, I recommend that students study and practice a little bit by themselves every day. Daily effort is the key to language learning. ※Students who do not speak in English during exercises and disrupt the learning environment will be warned, and potentially asked to leave if they continue disrupting class after the warning.						
教 本 ・ 参 考 図 書				評 価 方 法		
Provided by instructor				Quiz: 35%		
				Homework: 30%		
				Class Activity: 35%		
留 意 事 項						
※Students who do not speak in English during exercises and disrupt the learning environment will be warned, and potentially asked to leave if they continue disrupting class after the warning. ※There are no makeups for any missed homework, quizzes or assignments unless absent for a valid reason (COVID or other illness, death in the family, etc.)						

教科名	英語コミュニケーション	時 期	1年 後期	担当者	マイケル・クルックス Michael Crooks	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義			
概 要 このクラスでは、歯科衛生士が、日本語が話せない外国人の患者さんとの会話の中で役立つ、英語の単語、文法、フレーズ、表現を学びます。 基本的に英語だけで授業を進めますが、必要な場合は、質問してください。日本語で説明します。 様々なアクティビティを通して繰り返し練習することで、クラスで学んだ英語表現を、自信をもって実際のシチュエーションで活用できるようになることを目標としています。						
到達目標 このクラスでは、歯科衛生士として次のような場面で活用できる英語の語彙、文法、表現を習得します。 ・受付(電話の場合と直接来院した場合) ・治療(患者との会話(簡単な日常会話を含む)) ・治療後(治療後の説明や次の予約など)						
計画・(内容) 初回を除き、毎週、課題の提出、ミニテスト、学習した内容を定着させるためのクラスアクティビティーを行います。 成績は、ミニテスト、クラスアクティビティー、出席、課題の提出を元に評価します。 1-クラスについての説明、受付 2-ミニテスト1、受付 3-ミニテスト2、受付 4-ミニテスト3、受付 5-クラスアクティビティー 6-ミニテスト5、治療 7-ミニテスト6、治療 8-ミニテスト7、治療 9-ミニテスト8、治療後 10-クラスアクティビティー 定着度を見ながら、進度は調整します。 1週間に1度のクラスなので、少しずつでいいので、学習したことを、毎日練習してほしいと思います。 言語の学習では、毎日の努力が大切です。						
教本・参考図書 プリント教材を配布します。				評価方法 ミニテスト：35% 課題：30% クラスアクティビティー：35%		
留意事項 ※病気、忌引きなど止むを得ない理由以外での、課題、ミニテストの振り替えはできません。 ※クラスアクティビティー等で、英語で話す努力をせずに日本語だけで話すなど、周りに迷惑をかける行為が認められる場合は、注意します。注意しても改善が認められない場合は、次のクラスまで退室してもら場合もあります。						

教科名	心理学Ⅰ	時 期	1年 前期	担当者	藤村 敦	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義			
概 要						
歯科衛生士は、患者と良好な人間関係を築くことが重要である。また、職場内において医療スタッフとの人間関係を円滑にし、積極的に連携を図っていく姿勢も求められる。本講義では、心理学に関する主要な理論を学習し、人の様々な行動とその背景にある「ころ」について理解を深める。学習した様々な理論を臨床場面にどのように応用したらよいか、人間関係を築くために必要なスキルは何かなどについて考える演習を通し、他者理解、自己理解を広げるような講義とする。						
到達目標						
1. 知覚と行動、思考、記憶のメカニズムなどについて理解し、説明することができる。 2. 学習、動機づけなどに関する主要な理論について理解し、説明できるとともに、臨床場面でどのような場面に応用可能なのか自分なりの考えをもつことができる。 3. パーソナリティ・知能について理解を深め、自分自身と関連づけて考えることができる。 4. 人間関係づくりに必要なコミュニケーションスキルを習得する。						
計画・(内容)						
1. オリエンテーション(心理学とは?)、人間関係力を育む①(構成的グループエンカウンター) 2. 心理学の歩みと研究法、見る・聴く・感じるころ(知覚成立の基礎、知覚の体制化、知覚の諸相) 3. 学ぶ・覚えるころ①(学習のプロセス)、人間関係力を育む②(認知行動療法) 4. 学ぶ・覚えるころ②(記憶のメカニズム、記憶の病理とゆがみ) 5. やる気の心理①(動機づけ、動機づけの分類) 6. やる気の心理②(欲求) 7. 喜怒哀楽のころ(感情、フラストレーション、ストレス)、小テスト1回目 8. その人らしさの心理(パーソナリティの記述、パーソナリティの調べ方、パーソナリティの異常と障害) 9. 考えるころ(思考、問題解決、創造性)、小テスト2回目 10. かしこさの心理(知能、知能の測定、知的能力障害)						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 心理学 医歯薬出版株式会社				評価方法 授業内小テスト(40%)、授業内演習課題(60%)を基にして総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。		
留意事項 ・教科書は、2年次の心理学Ⅱにおいても使用します。						

教科名	国語表現	時 期	1年 前期	担当者	西谷 文子	実務・ 一般
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講義 ・ 演習			
概 要						
心豊かな人間性と信頼される歯科衛生士を目指し ①日本語が豊かに深く適切に使えるようになることを学ぶ ②今後に生きて働くような授業内容を取り入れて、“話す” “聞く” “読み” “書く” の四項目を毎時間振りかえる(400字作文やスピーチ等)						
到 達 目 標						
1 毎時間の400字作文と筋道をたてた長文を書くことができる 2 まとまりがあり、説得力のあるスピーチができる 3 心豊かで、恥ずかしくない大人としての国語表現を身につける(俳句、漢字等)						
計 画 ・ (内 容)						
1 オリエンテーション・スピーチ・書写 (スピーチ要領・構造図・文字の書き方) 2 スピーチ・書写 (スピーチ原稿書き・段落・句読点) 3 敬語 (正しい敬語の使い方) 4 慣用句・ことわざ (慣用句・ことわざ入りの400字作文) 5 表現力 (イメージマップづくり・俳句づくり) 6 選句会 (自薦・他薦) 7 手紙 (いろいろな手紙の書き方) 8 手紙 (お礼の手紙) 9 長文 (逆三角形の形式にあてはめて長文を書く) 10 読解 (新聞記事・視写) 11 読解 (新聞記事・まとめる・スピーチ) 12 説明文 (小さい頃の写真等の説明文を書く) 13 説明文 (友達に読んでもらい推敲文を書く) 14 コミュニケーション術 (いろいろな引き出し・実際例) 15 長文 (自分なりのテーマで400字以上の作文)						
教本・参考図書				評価方法		
・ 美しい日本語と正しい敬語 ・ だれでもできる10分間俳句 ・ 新聞記事				・ 15回提出の400字作文(文字・文章の組み立て・内容等)(80点) ・ プリント提出・発表力・表現力・漢字・小テスト・スピーチ(20点) 合計 100点		
留意事項						
・ 雑文字は減点対象になる (ひらがな、漢字) ・ 漢字テスト・スピーチを随時取り入れる ・ よりよく“話す” “聞く” “読む” “書く” の4つの要素を常に反省する						

教科名	解剖・生理	時 期	1年 前期・後期	担当者	田村 堅吾	実務・一般 医師
単位(時間数)	3 (45)	形 態	講義			

概 要
解剖学及び生理学は医学の中では基礎医学の一つとして最も基本的な学問であると同時に、医療関係に従事する場合には必ず学ばなければならない科目である。解剖学は正常状態における人体各部の形態及び構造を、また生理学ではそれらの機能を対象としている。さらに解剖学の一分野として組織学と発生学があり、これらを学ぶことにより各組織の微細な構造や人体発生の過程、遺伝情報及び、その成り立ちを理解することが可能になる。歯を含めた口腔内変化と内臓諸器官の機能上の変化や異常との関連がしばしば認められ、これらを検討、理解する上で解剖学や生理学に関わる知識は特に必要となる。

到達目標
教科書の各章の冒頭に掲げれているが、これらのうちで特に重要な項目についての理解ができる

計画・(内容)
1 組織と発生 ① 〔細胞の構造と機能(特に細胞膜及び細胞内小器官について) 細胞分裂と細胞の寿命について 2 組織と発生 ② 人体を構成する組織及びそれらの構造・機能上の特徴について 3 組織と発生 ③ 〔精子・卵子の発生と減数分裂 染色体、核酸(DNA,RNA)と遺伝情報について 4 組織と発生 ④ 〔受精、着床及び受精卵分裂と胚葉形成について 胎児の成長と器官の発生について 5 骨格系 ① 骨の生理的機能について 6 骨格系 ② 身体各部(頭部を除く)の存在する骨の形態とそれらの連結様式について 7 筋系 ① 身体各部の筋(筋群)の働きについて(特に呼吸筋・心筋・顔面筋や咀嚼筋について) 8 筋系 ② 筋の微細構造と収縮との関わりについて 9 消化・吸収 ① 消化管及び、消化腺の経路及び基本構造 10 消化・吸収 ② 消化器系各部における消化と吸収について 11 循環系 〔体循環と肺循環について 心臓及び血管系の構造・機能について 血圧、心電図について 12 血液 〔血液の機能 血液の成分及び各々の成分の機能 血液凝固、出血性素因について 血液型、輸血について リンパ系について 13 神経系 ① 神経系の分類と、その構成・機能について(特に中枢神経と体性神経・自律神経の役割りとその違いについて) 14 神経系 ② 神経細胞の興奮とその伝導について 15 呼吸 ① 〔呼吸器系の構造と機能について 呼吸運動と換気の仕組みについて 16 呼吸 ② 〔O ₂ とCO ₂ の運搬について 肺気量、換気量及び呼吸の調節について 17 感覚 ① 〔感覚の分類と一般的性質について 皮膚と粘膜の構造と感覚装置について

計画・(内容)	
18 感覚 ② 特殊感覚器とよばれる器官の種類と概要 19 排泄 ① 〔 排便の機序 発汗及び汗腺について 20 排泄 ② 〔 排尿の意義 排尿器(泌尿器)の経路と腎における尿生成過程 21 体温 〔 体温の産生とその調節・変動について エネルギー代謝について 22 内分泌 〔 内分泌と外分泌の相違点について 内分泌器官の種類とそれぞれから分泌されるホルモンの作用について 血糖値やカルシウム濃度の調節に関わるホルモンについて 23 生殖 〔 男性生殖器及び女性生殖器の構造の概要 男性生殖器の機能 女性生殖器にみられる性周期(子宮周期と卵巣周期)について 妊娠と分娩について	
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	評価方法 筆記試験(100%) 試験は前期1回、後期2回(12月、2月)実施 後期は2回分の合計(50%+50%)で合否判定
留意事項	

教科名	生 化 学	時 期	1年 後期	担当者	梅影 創	実務・ 一般
単位(時間数)	1(15)	形 態	講 義			
概 要 生化学は、生物の生命現象を化学的に説明しようとする学問であり、口腔内の化学や栄養学の基礎を学ぶ科目である。生体を構成する要素や栄養素を化学的にとらえ、その構造や働きを理解して説明できるようになることが目標である。本講義では、人体の構成要素、糖質・脂質・タンパク質・核酸の構造と代謝、酵素の種類と作用、恒常性を維持する仕組みについて学ぶ。						
到達目標 1. 人体を構成する要素を理解し、説明できる 2. 栄養素の消化・吸収・代謝を理解し、説明できる 3. 酵素の種類と作用を理解し、説明できる 4. 生体の恒常性を維持する仕組みを理解し、説明できる						
計画・(内容) 1 人体の構成要素(細胞・生体における水・生体成分と栄養素) 2 糖質の構造 (単糖類・二糖類・多糖類) 脂質の構造 (脂肪酸・中性脂肪・リン脂質・ステロール) 3 アミノ酸・タンパク質の構造(タンパク質の加水分解・アミノ酸の代謝分解・タンパク質の合成) 酵素の役割 消化と吸収 4 エネルギー代謝とATP(エネルギー代謝の全体像) 糖質の代謝 (解糖・クエン酸回路・電子伝達系) 5 糖質の代謝 (グリコーゲンの合成と分解) 脂質の代謝 (脂肪酸の酸化・脂肪の合成・糖質の代謝との関連性) 6 アミノ酸・タンパク質の代謝 (アミノ酸の分解・糖質の代謝との関連性) 7 核酸の構造、 タンパク質の合成 8 生体の恒常性を維持する仕組み(恒常性とは・ホルモン系と自律神経系) 全体のまとめ						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝				評価方法 小テスト(20%)と筆記試験(80%)を総合して評価する		
留意事項 ・必要に応じて、資料を配付するので必ず綴じておくこと ・授業開始時に前回の内容の小テストを実施するので、復習して理解しておくこと						

教科名	口 腔 組 織	時 期	1年 前期	担当者	佐藤 孝圭	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要						
歯科衛生士として治療の対象となる組織の構造と機能を学ぶ。						
到達目標						
1 歯科臨床の基礎となる歯・歯周組織の構造がわかる 2 学んだ知識と歯科臨床が直結してイメージできる						
計画・(内容)						
1 顔面と口腔の発生（歯や歯周組織の元はどこから現れるか） 2 顔面と口腔の発生（顔面、口腔の異常はどのように起きるか） 3 歯と歯周組織の発生（歯提と歯胚の形成） 4 歯と歯周組織の発生（鍾状期の歯胚） 5 歯および歯周組織の構造と機能（エナメル質） 6 歯および歯周組織の構造と機能（象牙質・歯髄複合体） 7 歯および歯周組織の構造と機能（セメント質、歯根膜、歯槽骨） 8 歯および歯周組織の構造と機能（歯肉、口腔粘膜）						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				評価方法 筆記試験 100点		
留意事項						

教科名	口腔生化学	時 期	1年 後期	担当者	鍋谷 大史	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要 ・主たる口腔の組織は結合組織である。歯の構成成分を学びエナメル質、象牙質、骨、歯の石灰化などについて学ぶ。 ・脱灰・再石灰化、唾液の組成や作用を学ぶ。プラーク・ペリクル・歯石について学び、プラークコントロールの重要性を理解する。 ・う蝕や歯周疾患の機序を学び、その対策や生体防御機構について学ぶ。 ・う蝕の原因の一つである糖について、また代用甘味料について学ぶ。 ・カルシウム・リン酸イオンの生体内での状態を学び、脱灰、再石灰化にどのようにかかわっているのか学ぶ。						
到 達 目 標						
1 結合組織の組成と機能を説明できる 2 歯の無機成分を説明できる 3 歯の有機成分を説明できる 4 血清中のカルシウムとリン酸の濃度が説明できる 5 歯と骨の石灰化を説明できる 6 血清カルシウム調節を説明できる 7 歯の脱灰と再石灰化を説明できる 8 唾液の無機成分と有機成分の種類を述べる 9 唾液の無機成分の作用を説明できる 10 唾液の有機成分の作用を説明できる 11 う蝕におけるデンタルプラークの関りを説明できる 12 歯周疾患におけるデンタルプラークの関りを説明できる						
計画・(内容)						
1 歯と歯周組織の概論 結合組織(結合組織の組成と機能・プロテオグリカン・コラーゲン合成) 2 歯の組成(歯の無機成分・有機成分) 3 硬組織の生化学(血清中のカルシウムとリン酸・石灰化の仕組み・歯と骨の石灰化の仕組みの違い) 4 骨の生成と吸収・歯の脱灰と再石灰化(骨芽細胞と破骨細胞・血清カルシウム調節ホルモン) 5 唾液の生化学概論(唾液の組成と機能) 6 唾液の無機質・有機質(それぞれの組成と機能) 7 プラークの生化学概論(プラークの生物活性と種類・プラークの形成・バイオフィルム・う蝕発生機構) 8 プラークによる口臭発生機構・歯周疾患発生機構(細菌活性・生体防御機構と炎症反応)						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝				評価方法 筆記試験 100点		
留意事項 ・配布されたプリント及び参考資料・復習問題は予習復習となるため、指示に従い講義時間外に必ず行うこと ・プリントの課題や提出は期日を厳守すること						

教科名	口腔解剖	時 期	1年 前期	担当者	加藤 元康	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講 義		岩井 祐司	実務・一般 歯科医師
概 要						
・ 口腔解剖学は歯科臨床における基礎であるため、頭部および顔面部の骨、筋及び神経等の解剖学的知識を習得する。さらに単に構造だけでなく機能を理解することを目的とする。(加藤)						
・ 口腔付近の動脈、静脈、リンパ節、神経のつながりを学ぶ。(岩井)						
到達目標						
1 頭部、顔面部および口腔の解剖学的名称がわかる。(加藤)						
2 頭部、顔面部ならびに口腔を構成する骨と筋の名称およびそれらの機能について理解する。(加藤)						
3 脳神経12対のうち、頭部・顔面部および口腔に関わる神経の名称および走行、さらに機能について説明できる。(加藤)						
4 全身の関節の中でも特殊な顎関節の構造および機能について説明できる。(加藤)						
5 頭頸部の動脈、静脈を説明できる。(岩井)						
6 頭頸部のリンパ節のつながりを説明できる。(岩井)						
7 頭頸部の神経のつながりを説明できる。(岩井)						
計画・(内容)						担 当
1 頭蓋・顔面、特に口腔内を詳細に解剖学的名称を学ぶ。 小テスト①						加 藤
2 頭蓋骨・顔面骨についてシェーデルを用い、構造を学ぶ。 小テスト②						〃
3 頭蓋骨・顔面骨特に口腔の発生について学ぶ。 小テスト③						〃
4 口腔を構成する骨についてシェーデルを用い、構造および機能を学ぶ。 小テスト④						〃
5 頭蓋・顔面、特に顎関節においては、骨に付着する筋およびその機能に関わる神経走行について学ぶ。 小テスト⑤						〃
6 脳神経12対について学ぶ。 小テスト⑥						〃
7 心臓(口腔付近に分布する脈管系)						岩 井
8 ②知覚神経						加 藤
③運動神経						
④特殊神経(涙腺分泌・唾液分泌・味覚)						
⑤以上の神経と中枢からの走行および筋および臓器機関への分布 小テスト⑥						
9 動脈(総頸動脈・内頸動脈・外頸動脈・舌動脈・顔面動脈・後頭動脈・後耳介動脈・浅側頭動脈・顎動脈) 小テスト(1)						岩 井
10 静脈(頭頸部の動脈と静脈の違い・頭頸部の主な枝) 小テスト(2)						〃
11 リンパ(頭部のリンパ節・頸部のリンパ節・扁桃) 小テスト(3)						〃
12 神経①(脳神経・自律神経)						〃
13 神経②(三叉神経) 小テスト(4)						〃
14 神経③(顔面神経) 小テスト(5)						〃
15 神経④(舌咽・舌下神経)						〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				評価方法 ・ 筆記試験(45点)小テスト6回(5点) 計 50点 【加藤】 ・ 筆記試験(40点)小テスト5回(10点) 計 50点 【岩井】 合計 100点		
留意事項						

教科名	歯 牙 解 剖	時 期	1年 前期	担当者	澤木 淳	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義		渡邊 佳子	実務・一般 歯科衛生士
概 要						
・ 歯の記号や表示法について学ぶ。 乳歯・永久歯の個々の歯牙の特徴を理解し、歯種の鑑別ができるようになる。						
到達目標						
1 歯の表示法や記号について説明できる(澤木・渡邊) 4 歯の形態を歯種別に説明できる(澤木・渡邊) 2 歯種を鑑別できる(澤木・渡邊) 5 歯の形態異常について説明できる(澤木・渡邊) 3 歯列と咬合について説明できる(澤木)						
計画・(内容)						担 当
1 総論 (歯の種類と数・歯式・名称・用語) 2 上顎・下顎前歯部 (形態・特徴) 3 上顎・下顎小臼歯 (形態・特徴) 4 乳歯・永久歯 (形態・特徴) 5 上顎・下顎大臼歯 (形態・特徴) 6 乳歯 (形態・特徴) 7 歯の異常、歯列と咬合 8 乳歯・永久歯 (形態・特徴)						澤 木 〃 〃 渡 邊 澤 木 〃 〃 渡 邊
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖・口腔組織発生学・口腔生理学				評価方法 ・ 筆記試験 (60点) 【澤木】 ・ 筆記試験 (40点) 【渡邊】 合計 100点		
留意事項						
・ 毎回、前回の復習事項を口頭試問します。予習復習を欠かさない事。(澤木)						

教科名	口腔生理	時 期	1年 後期	担当者	深瀬 寛也	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義				
概 要							
口腔生理学は、歯・咀嚼・唾液分泌・味覚・口腔感覚・発生の生理について、そのメカニズムを明らかにすることを目的とした生理学であり、口腔・顎・顔面などの諸器官の機能を健全に維持するため、また、これらの諸器官の機能障害を予防治療するうえで基礎となる学問である。							
到達目標							
1 口腔生理学により正常な生活機能を把握し、今後学習する病態理解のための基礎を理解する 2 口腔生理学を日常臨床に応用できるよう理解する							
計画・(内容)							
1 口腔生理学とは(必要性と歯・歯周組織の生理) 2 歯と口腔の感覚・咬合と咀嚼・吸啜(歯の動揺度、歯間離開度・下顎位) 3 下顎の運動・限界運動(顎関節の特徴、限界運動および咀嚼筋の働き) 4 顎反射(定義および意義、閉口反射と開口反射) 5 嚥下と嘔吐(咽頭の構造)、口呼吸・口臭(口腔粘膜の感覚) 6 味覚と唾液(味覚の役割り・唾液腺、分泌機構、性状・成分と機能) 7 唾液と疾患・発声(う蝕症、粘膜・歯周疾患) 8 発声(発声機構の概要・声の生成・言語音の形成、歯・口腔の病態と発音)							
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学				評価方法 筆記試験(100点)			
留意事項							

教科名	病理学	時 期	1年 後期	担当者	富樫 信	実務・一般 臨床検査技師
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講 義		勝又 謙	実務・一般 歯科医師
概 要						
・ 病理学は病気の原因、進展および転帰を明らかにし、病気の予防や治療の基礎となる知見を統合する学問である。病理学の講義を通じて病理学総論を理解し、歯科診療の場において的確に患者に対応するための知識を習得する(富樫) ・ 口腔領域の歯牙及び歯周組織に生ずる疫病の原因及び経過を理解し、それらの病気の本態を究明する。(勝又)						
到達目標						
1 種々発生する疾病や病的状態の原因、発生機序、進展および転帰を学び、病理学の基本知識を習得する。(富樫) 具体的には、下記に記した計画・内容1～7の項目について学び、知識習得を図る。(富樫) 2 口腔病変の診断・治療の知識を理解し臨床において適切な指導及び処置を行うための基礎知識を習得する。(勝又)						
計画・(内容)						担 当
1 病理学序論と病因論 (疾病の概念、病因と病態に関する知識を習得する)						富 樫
2 遺伝性疾患と奇形 (各遺伝性疾患を学び、奇形の原因や発生機序を学ぶ)						〃
3 循環障害 (充血とうっ血の違いを学び、虚血、出血の原因、血栓や塞栓の形成機序、梗塞の成因を学ぶ)						〃
4 代謝障害と退行性病変 (細胞・組織の変性、萎縮、壊死を学び、アポトーシスとネクローシスの違いを学ぶ)						〃
5 増殖と修復 (肥大、増生、化生、再生について学び、創傷の治癒過程を学ぶ)						〃
6 炎症と免疫応答異常 (炎症の病因を学び、免疫やアレルギーについて学ぶ)						〃
7 腫瘍 (腫瘍の定義を学び、良性腫瘍と悪性腫瘍の違い、腫瘍の種類や発育、浸潤、転移についてを学ぶ)						〃
8 口腔病理とは・歯の発育異常(概論・歯の発育異常の種類と好発部位)						勝 又
9 歯の損傷と着色・沈着物(分類と組織像)						〃
10 う蝕(う蝕の疫学、発生、分類、組織像)						〃
11 象牙質・歯髄複合体の病態(歯髄炎の原因、分類、病理像)						〃
12 歯周組織の病態(歯周組織の病態と成り立ち)						〃
13 口腔粘膜の病変、唾液腺の病変(口腔粘膜、唾液腺の種類と原因)						〃
14 口腔領域の腫瘍、口腔癌、口腔組織の変化(腫瘍、口腔癌の定義と分類)						〃
15 口腔領域の奇形と嚢胞、顎骨の病変、口腔組織の加齢変化 (各腫瘍の定義と分類、口腔癌の定義と分類、歯周組織の加齢変化)						〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学 口腔病変の組織診断 山本浩嗣・武田泰典				評価方法 筆記試験 (50点) 【富樫】 筆記試験 (50点) 【勝又】 合計 100点		
留意事項						
・ 講義終了後、確認問題を提示し知識の整理や要点を確認し習得の効率化を図る。確認問題は繰り返し行い、知識を身につけるよう努めること。(富樫) ・ 前回の授業の復習の小テストを行い、理解度の確認をする。(勝又) ・ 時間割とは順番が異なることがあります。						

教科名	微生物学	時 期	1年 後期	担当者	澤辺 桃子	実務・ 一般
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講 義		鍵谷 毅	実務 ・一般 歯科医師
概 要						
・ 口腔疾患の多くが微生物を原因とする感染症であることから、これらを学ぶ前段階として、微生物が身近な存在であることを実感し、微生物の基本的性状を理解するとともに、病原微生物の病原性と病態、感染と発症のメカニズム、化学療法の原理、生体防御機構を学ぶ。 (澤辺) ・ 口腔二大疾患である齲蝕症と歯周病は口腔内微生物による感染症であるが、それらの疾患が口腔という特殊な環境の中で如何にして発症してくるのかを理解する。さらに、口腔感染症と全身疾患との関わりを知ることにより、口腔の健康の大切さを学ぶ。(鍵谷)						
到 達 目 標						
1 微生物の種類や具体的名称を列挙し、各々の基本的性状を説明できる(澤辺) 2 微生物の病原性を把握し、感染と発症のメカニズム、宿主の抵抗性、化学療法の原理を説明できる(澤辺) 3 生体防御機構である免疫の基本的知識とワクチン及びアレルギーについて説明できる(澤辺) 4 歯科衛生士業務としての予防処置、口腔衛生指導及び院内感染予防のためのスタンダードプレコーションの実践に必要な基礎知識がわかる(鍵谷)						
計画・(内容)						担 当
1 疾患と微生物 (微生物とは何か、微生物の種類と発見の歴史を学び、身の周りの微生物の培養をおこなう)						澤 辺
2 微生物の基本的性状、細菌培養と顕微鏡観察 (微生物の基本的性状、培養と観察法、顕微鏡の種類について学ぶ)						〃
3 感染の種類と経路、滅菌・消毒方法 (微生物の種類と状況による感染経路と発症過程、感染防止に必要となる滅菌と消毒の種類とその原理を学ぶ)						〃
4 化学療法 (微生物の基本的性状と化学療法薬との関係性を理解し、使用目的とその原理を学ぶ)						〃
5 微生物の病原性(1)病原性細菌の種類と病原性 (細菌の感染機構と病原性について把握し、各病原性細菌の形態学的特徴と基本的性状を学ぶ)						〃
6 微生物の病原性(2)ウイルスとその他の微生物の種類と病原性 (ウイルスやその他の微生物の感染機構と病原性について把握し、各病原微生物の形態学的特徴と基本的性状を学ぶ)						〃
7 宿主防御機構 (宿主の抵抗性を理解し、免疫の種類、免疫担当細胞の種類と役割、抗原と抗体、サイトカインについて学ぶ)						〃
8 免疫機構とアレルギー (免疫反応を利用した検査法、ワクチン、アレルギーについて学ぶ)						〃
9 口腔細菌叢 (成り立ちと遷移、部位別細菌叢)						鍵 谷
10 バイオフィルムとしてのプラーク (プラークの形成機序)						〃
11 バイオフィルムとしてのプラーク、口腔感染症 (齲蝕)						〃
12 口腔感染症 (歯肉感染症、歯周病)						〃
13 口腔感染症 (歯周病) その他の口腔感染症 (唾液腺の感染症)						〃
14 その他の口腔感染症、口腔外感染症と院内感染症対策 (カンジタ症等)						〃
15 院内感染対策と滅菌消毒 (滅菌消毒法)						〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学				評価方法 ・ 筆記試験 50点 【澤辺】 ・ 筆記試験30点 小テスト20点 【鍵谷】 合計 100点		
留意事項						
・ 復習および予習となる問題プリントを配布するので、講義時間外に各自で解答しておくこと (澤辺) ・ 毎回授業の最後に小テストを行います(鍵谷)						

教科名	保健生態学Ⅰ	時 期	1年 前期	担当者	奥ひろみ	実務・一般・歯科衛生士
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講義			
概 要						
保健生態学は、衛生学・公衆衛生学および口腔衛生学を一連のものとして捕らえた学問です。その内容は3編に分割して、Ⅰ編『健康を左右する環境』、Ⅱ編『歯・口腔の健康と予防』、Ⅲ編『健康に関わる地域の役割』となっております。 この授業では、Ⅱ編『歯・口腔の健康と予防』について学びます。内容は人々の歯、口腔の健康と歯科疾患の予防に関わるセルフケア能力を高めるために、指導的役割となる歯科衛生士として必要な知識を整理する。また、予防歯科の概念と歯科疾患の予防、ライフステージごとの口腔管理について導入的に学びます。 なお、第2. 4. 5. 6章については、『口腔保健管理』の授業にて学ぶ。						
到達目標						
1. 口腔の健康の定義を説明できる 2. 歯・口腔の健康保持増進する手段について概説できる 3. 歯・口腔の機能について説明できる 4. 口腔と全身の健康との関連について説明できる						
計画・(内容)						
《Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防》 第1章 総論 1. 『歯・口腔の健康と予防』の定義、基礎、方法 (第1～第3次の予防水準を中心に学ぶ) 2. 『歯・口腔の健康と予防』と健康づくり (WHO口腔保健や8020運動、健康日本21等を簡単に紹介する) 3. 歯・口腔の構造について (歯、歯周組織、口腔粘膜、舌、顎関節の順に学ぶ) 4. 唾液腺について (種類、分泌、性状・成分、機能について学ぶ) 5. 歯・口腔の発生、成長、発育について (歯や顎と歯列咬合について、必要な栄養素やホルモンを学ぶ) 6. 歯・口腔の形成異常について (歯の数や形態、色、位置や咬合について正常像との比較をしながら学ぶ) 7. 歯・口腔の機能について (咀嚼と嚥下、味覚や発音を学ぶ。また、歯科疾患と全身の健康との関連を学ぶ) 第3章 歯科疾患の疫学 8. 歯科疾患の疫学的特性 (う蝕、歯周疾患、不正咬合、顎関節症、口腔癌、粘膜疾患) 第7章 その他の疾患、異常の予防 9. 口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全 (それぞれ分類や実態、要因と予防について学ぶ) 10. 口臭症、口腔乾燥症 (それぞれ分類や実態、要因と予防について学ぶ) 第8章 ライフステージごとの口腔保健管理 11. 妊産婦期 (妊産婦自身の口腔保健管理について、食生活の変化や女性ホルモンによる影響などを学ぶ) 12. 乳幼児期 (無歯期から乳歯列期にかけて、口腔機能の発達に伴う口腔清掃や離乳など重要な要点を学ぶ) 13. 小児期 (学齢期では永久歯へ生えかわりに際しう蝕の感受性が高まることにたいする保健管理を学ぶ) (思春期からは歯周疾患の予防と永久歯咬合の育成について学ぶ) 14. 成人期 (歯周疾患と口腔軟組織の保健管理を学ぶ) 15. 老年期 (残存歯の管理と、口腔乾燥症にたいする保健管理を学ぶ)						
教本・参考図書				評価方法		
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学				筆記試験1回 80点満点 小テスト2回 10点満点×2 合計100点満点にて評価		
留意事項						
小テストは授業の第4回、第10回の終了後に実施予定です。 授業の始めに前回の復習問題、授業の終わりに今回の確認問題をそれぞれ行いますが、筆記試験や小テストにも関連するので重要です。						

教科名	歯科衛生学総論	時 期	1年 前期	担当者	澤谷 幸絵	実務・一般 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要						
・ 歯科衛生業務を実践し、各世代の人々の健康づくり、健康寿命の延伸に寄与できる保健医療人としての基本的態度を理解する。 ・ 歯科衛生士として必要な知識、技術を習得する態度や心構えを確認する。						
到達目標						
1 歯科衛生業務を説明できる。 2 歯科衛生の実践が倫理的であるべき理由、患者と医療者双方の権利と義務を説明できる。						
計画・(内容)						
1【1章】 歯科衛生学とは 歯科衛生学の定義・ライフステージごとの関わり、チーム医療とは 2【2章】 歯科衛生士の歴史 誕生の経緯と業務内容の発展 業務内容を明確にする 3【3章】 歯科衛生活動のための理論 予防の概念と保健行動の理論をケースで学ぶ 4【5章】 歯科衛生士法と歯科衛生業務 法律に基づく業務の理解と関連法規について 5【6章】 歯科衛生士と医療倫理 歯科衛生士の倫理綱領を用いて、医療の倫理を考える 患者の権利について 6【7章】 歯科衛生士の活動と組織 動態、活動の領域、多職種連携 7【8章】 海外における歯科衛生士 それぞれの国での業務内容 8【全体のまとめ】 過去問を用いて全体のまとめ						
教本・参考図書				評価方法		
・ 歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論 ・ 公益社団法人日本衛生士会 歯科衛生士の倫理綱領				筆記試験 100点		
留意事項						
・ 自分の考えを発言するなど、積極的に授業に臨む ・ 教科書をよく読み、専門用語は漢字で書けるように覚える努力をする						

教科名	保 存 修 復	時 期	1年 後期	担当者	平田 充	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義		鈴木 均史	実務・一般 歯科医師
概 要 ・ 歯科保存修復学の歯科医学における位置づけを理解し、歯を健全な状態で保存するための、歯科保存修復学の役割を学ぶ。(平田) ・ 保存修復の種類・材料および使用器具について学習する。(鈴木) ・ 保存修復における直接修復と間接修復を学習する。(鈴木)						
到達目標 1 歯の硬組織疾患の種類と原因、予防法、処置法を説明できる (平田) 2 う蝕治療の流れ、また前準備の概要を説明できる (平田) 3 MIDを説明できる (平田) 4 保存処置に使用する器材の概要を説明できる (鈴木) 5 修復法の種類(直接修復・間接修復)と特徴を説明できる (鈴木) 6 歯の切削器機・器具の種類と特徴を説明できる (鈴木)						
計画・(内容)						担 当
1 総論 (保存修復学の位置づけ)						平 田
2 窩洞と保存修復治療 (窩洞の構成と名称・分類)						〃
3 保存修復治療の概要 (修復処置の流れ)						〃
4 直接法修復① (コンポジットレジン修復)						〃
5 直接法修復② (セメント修復)						〃
6 セメント修復について(復習)						鈴 木
7 間接法修復 (メタルインレー修復・アンレー修復)						〃
8 〃 (セラミックインレー修復・コンポジットレジンインレー修復)						〃
9 〃 (ベニア修復)						〃
10 〃 (合着材および接着材)						〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 保存修復・歯内療法				評価方法 ・ 筆記試験(40点)小テスト(10点) 合計50点 【平田】 ・ 筆記試験(50点) 【鈴木】 合計 100点		
留意事項 ・ 授業は集中し意欲を持って取り組むこと (平田) ・ 各項目について、教科書、参考資料、ビデオ、スライド等を使い学習する (平田・鈴木) ・ 参考資料(冊子)を配布しますので、必ず持参すること (鈴木) ・ 復習問題にて、さらに理解度を高める (鈴木)						

教科名	歯 内 療 法	時 期	1年 後期	担当者	岩井 宏之	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義		福田 幹久	実務・一般 歯科医師
概 要						
・ 歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患の分類、それぞれの原因と治療方法を理解する。(岩井) ・ 歯科衛生士として歯内療法治療に必要な診査・診断・治療内容・器材・薬剤の知識を習得する。(岩井) ・ 歯科臨床において、日常的に行われる歯内療法に携わる上で、その処置、器具、薬剤の使用目的、使用法、必要性を理解する。(福田)						
到達目標						
1 象牙質知覚過敏症の症状と原因・処置法を説明できる (岩井) 2 歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類と症状、治療法を説明できる (岩井) 3 歯髄の保存療法と除痛療法を説明できる (岩井) 4 治療対象となる根管の分別ができる (福田) 5 抜髄処置、感染根管処置を理解できる (福田) 6 根管形成法を理解できる (福田) 7 種々の根管充填を理解できる (福田) 8 根未完成歯の歯内療法を理解できる (福田) 9 種々の外科的歯内療法を理解できる (福田) 10 外傷、偶発症への対応を理解できる (福田)						
計画・(内容)						担 当
1 歯内療法の概要 (歯内療法の目的・主な疾患の概要と原因)						岩 井
2 歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類・症状・処置(1)						〃
3 歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類・症状・処置(2)						〃
4 歯髄保存療法 (歯髄鎮痛消炎療法・覆髄法)						〃
5 歯髄の除去療法 (歯髄切断法・抜髄法)						〃
6 根管治療の術式、根管の病態と分類について (診断～準備、根管口明示まで)						福 田
7 根管形成の実際について (根管形成、拡大、貼薬、仮封)						〃
8 根管充填の実際について (根管充填法の種類、器具、特徴)						〃
9 根未完成歯の根管治療、外科的歯内療法について (アペキソゲネーシス、アペキシフィケーション、様々な外科的歯内療法)						〃
10 歯牙の外傷、及び偶発症への対応について						〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 保存修復・歯内療法				評価方法 ・ 筆記試験 50点 【岩井】 ・ 筆記試験 50点 【福田】 合計 100点		
留意事項 毎回、配布するプリントを熟読し理解を深めること (岩井)						

教科名	歯周疾患	時 期	1年 後期	担当者	光 銭 裕太	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講 義		石塚 弘樹	実務・一般	歯科医師
概 要							
・ 歯周疾患の基礎的内容(総論、歯周組織の解剖と機能、歯周治療)について理解し、歯科衛生士業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法について学ぶ。(光銭) ・ 歯周疾患はう蝕とともに歯を失う2大疾患といわれ、その予防と治療は歯科衛生士の仕事として極めて重要である。歯周病への理解を深め、歯科衛生士として必要な予防と治療の知識を習得する。(石塚)							
到達目標							
1.臨床に携わる前に知っておくべき歯周病の知識を習得する(光銭) 2.歯周病の種類と症状を説明できる(光銭) 3.歯周病進行の流れを説明できる(光銭) 4.歯周病の検査法と検査結果を説明できる(光銭) 5.歯周基本治療の術式と適応症を説明できる(光銭) 6.歯周外科からメンテナンスまでの目的や術式、使用器具がわかり、歯周治療における歯科衛生士の役割が理解できる(石塚) 7.歯周疾患と全身疾患の関連性を説明できる(石塚)							
計画・(内容)							担 当
1 歯周治療とは (総論)							光 銭
2 正常な歯周組織の構造と機能 (歯周組織、歯周組織と咬合、審美性の維持、歯周組織と加齢変化)							〃
3 歯周病の原因 (細菌因子、宿主因子、環境因子)							〃
4 歯周病の分類 (歯肉病変、各歯周炎、咬合性外傷)							〃
5 歯周治療の進め方 (歯周病の予防と歯周治療の基本)							〃
6 歯周病の診査 (主訴を中心とした一般診査・歯周組織破壊程度の診査・原因となる因子の診査)							〃
7 歯周基本治療① (歯周基本治療の目的・効果)							〃
8 歯周基本治療② (歯周基本治療の内容と実際・薬物療法)							〃
9 歯周外科治療① (目的と分類、歯周外科の治癒形態、歯周外科に用いる器具)							石 塚
10 歯周外科治療② (種類、根分岐部病変の治療、歯周一歯内病変の治療)							〃
11 歯周治療としてのリハビリテーション (咬合治療、矯正治療、歯の固定、インプラント治療)							〃
12 メンテナンス、サポータティブペリオドンタルセラピー:SPT (メンテナンス、SPTの重要性と意義、メンテナンス、SPTに移行する時期、リコール時の診査・治療)							〃
13 歯周治療における歯科衛生士の役割 (歯周治療の進め方、診査・診断の補助、歯周治療に使用する器具)							〃
14 歯周治療における歯科衛生士の役割 (ブラークチャート、ポケットチャートの種類、歯周治療に使用する器具)							〃
15 歯周疾患と全身疾患の関連性について (糖尿病、循環器疾患、高血圧、早産・低体重児出産、喫煙、骨粗鬆症、誤嚥性肺炎、菌血症等)							〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯周病学				評価方法 ・ 筆記試験 50点 【光銭】 ・ 筆記試験 50点 【石塚】 合計 100点			
留意事項 ・ 講義内容に該当する範囲は教科書にて予習すること(光銭) ・ 配布されたプリントにて復習し、2回目以降の講義で確認問題を行う(光銭) ・ 毎回の講義ごとに、講義内容に該当する範囲を教科書で予習しておくこと(石塚) ・ 配布プリントを復習し、2回目以降の講義毎に復習問題を行う(石塚)							

教科名	口腔保健管理Ⅰ	時 期	1年 前期・後期	担当者	永橋 茜 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	5(200)	形 態	講義・実技・演習				
概 要 口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。 1年次は、口腔の基礎知識、う蝕予防・歯周病予防の概念と内容、口腔内情報収集やスクレーリング・歯面清掃・歯面研磨などの基本的な歯科衛生士介入の技術を身につける。							
到達目標							
1.口腔の健康像がわかる 2.う蝕・歯周病の原因およびプロセスを説明できる 3.歯・口腔の健康を増進させるための方法がわかる 4.各種ブラッシング方法を実施できる 5.口腔内情報収集を実施できる 6.フッ化物の種類、作用機序、取り扱い方法がわかる 7.ライフステージごとの口腔保健管理を説明できる 8.歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 9.小学生を対象とした個別指導能力を身につける 10.シクルスケーラーを適切に操作できる 11.超音波・エアスケーラーを適切に操作できる 12.う蝕活動性試験を説明できる 13.口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる 14.小窩裂溝填塞法を実施できる							
計画・(内容)							担 当
前期 1 概論①(歯科予防処置・歯科保健指導の定義・考え方・法的位置付け) 2 概論②(健康の概念、予防の概念) 3 口腔の基礎知識①(正常な口腔、歯周組織、歯冠と歯根の形態) 4 口腔の基礎知識②(口腔の機能、摂食嚥下の仕組み) 5 う蝕と歯周病の基礎知識(口腔内の付着物・沈着物) 6 歯科衛生介入としての歯科保健指導①(プラーク染め出し演習) 7 う蝕とは①(う蝕の原因・分類) 8 う蝕とは②(食品とう蝕誘発性) 9 歯周病とは①(歯周病の分類と臨床的特徴) 10 歯周病とは②(進行プロセス、原因、影響を与える疾患) 11 食生活との関連(歯周病、酸蝕症、咀嚼) 12 歯科衛生介入としての歯科保健指導②(歯ブラシの種類、ブラッシング方法) 13 歯科衛生介入としての歯科保健指導③(ブラッシング方法演習) 14 歯科衛生介入としての歯科保健指導④(補助講義・演習) 15 歯科衛生介入としての歯科保健指導⑥(電動歯ブラシ・音波歯ブラシ演習:ブラッシングセミナー) 16 歯科衛生介入としての歯科保健指導⑥(電動歯ブラシ・音波歯ブラシ演習:ブラッシングセミナー) 17 マネキン演習(術者の姿勢、ポジション、患者頭部の設定、ミラーテクニック、探針操作) 18 口腔内の器質的問題の把握①(口腔内の観察、検査項目) 19 口腔内の器質的問題の把握②(歯面の付着物・沈着物 探針操作 マネキン演習) 20 口腔内の器質的問題の把握③(プラークの測定方法) 21 ブラッシング方法(実技試験) 22 口腔内の器質的問題の把握④(歯周ポケット、歯石、動揺度) 23 口腔内の器質的問題の把握⑤(歯周組織検査 マネキン実習①) 24 口腔内の器質的問題の把握⑥(歯周組織検査 マネキン実習②) 25 口腔内の器質的問題の把握⑦(動揺度、歯間離開度、口臭) 26 口腔内の器質的問題の把握⑨(プラーク染め出し、術者磨き 相互実習) 27 フッ素の知識(フッ素の一般性状と用語、摂取量とその基準) 28 フッ化物の応用①(歯面塗布) 29 フッ化物の応用②(フッ化物洗口) 30 フッ化物の応用③(歯磨剤) 31 歯科衛生介入①(フッ化物歯面塗布綿球法 相互実習) 32 歯科衛生介入①(フッ化物歯面塗布綿球法 相互実習) 33 歯周組織検査(実技試験) 34 歯面研磨・歯面清掃①(目的、操作方法、注意事項) 35 歯面研磨・歯面清掃②(上下前歯部 マネキン演習) 36 歯面研磨・歯面清掃③(上下臼歯部 マネキン演習) ※ 演習授業については、科目担当教員(永橋・千葉・渡邊)が指導を行う。							千葉 千葉 永橋 永橋 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 千葉 千葉 千葉 渡邊 渡邊 渡邊 永橋 永橋 千葉 千葉 渡邊 渡邊 渡邊 永橋 永橋 永橋 渡邊 渡邊 渡邊 永橋 永橋 永橋
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 歯科衛生学シリーズ 歯周病学				評価方法 前期 実技試験 (10点×3回実施＝30点) 実技試験 (70点) 合計100点 後期 実技試験 (10点×2回実施＝20点) 筆記試験 (80点) 合計100点			
留意事項 配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習となるため、指示に従い使用・保管すること 演習の際は、積極的に参加すること 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	口腔保健管理Ⅰ	時 期	1年 前期・後期	担当者	永橋 茜 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	5(200)	形 態	講義・実技・演習				
概 要							
口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。 1年次は、口腔の基礎知識、う蝕予防・歯周病予防の概念と内容、口腔内情報収集やスクレーリング・歯面清掃・歯面研磨などの基本的な歯科衛生士介入の技術を身につける。							
到達目標							
1.口腔の健康像がわかる 2.う蝕・歯周病の原因およびプロセスを説明できる 3.歯・口腔の健康を増進させるための方法がわかる 4.各種ブラッシング方法を実施できる 5.口腔内情報収集を実施できる 6.フッ化物の種類、作用機序、取り扱い方法がわかる 7.ライフステージごとの口腔保健管理を説明できる 8.歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 9.小学生を対象とした個別指導能力を身につける 10.シクルスケーラーを適切に操作できる 11.超音波・エアスケーラーを適切に操作できる 12.う蝕活動性試験を説明できる 13.口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる 14.小窩裂溝填塞法を実施できる							
計画・(内容)							担 当
37 保健行動支援のための基礎知識①(行動変容に関連する理論) 38 保健行動支援のための基礎知識②(行動変容を促す理論の実践) 39 患者からの情報収集①(主観的情報:医療面接、全身の健康状態) 40 患者からの情報収集②(認知機能、生活環境と生活背景の把握) 41 口腔内情報収集相互実習(歯周組織検査・動揺度・歯間理解度) 42 口腔内情報収集相互実習(歯周組織検査・動揺度・歯間理解度) 43 歯面研磨・歯面清掃(実技試験) 44 喫煙者に対する指導①(生活習慣と病因論) 45 喫煙者に対する指導②(喫煙ステージのアセスメントと禁煙支援のポイント) 46 口腔内情報収集・歯科衛生介入(歯周組織検査、歯面研磨・歯面清掃 マネキン実習)							永橋 永橋 永橋 永橋 千葉 千葉 永橋 千葉 千葉 渡邊
後期							
47 ライフステージ妊産婦期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 48 ライフステージ乳児期・新生児期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 49 ライフステージ幼児期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 50 ライフステージ学齢期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 51 う蝕活動性試験①(意義、条件、目的、種類と特徴) 52 う蝕活動性試験②(患者指導) 53 リーフレットを使用した個人指導①(フッ化物の効果) 54 リーフレットを使用した個人指導②(う蝕予防と食生活) 55 リーフレットを使用した個人指導③(フッ化物の効果/う蝕予防と食生活 演習) 56 歯科衛生介入②(歯周組織検査 相互実習) 57 歯科衛生介入②(歯周組織検査 相互実習) 58 歯周組織検査・学齢期の個人指導(1・3年生合同相互実習) 59 歯周組織検査・学齢期の個人指導(1・3年生合同相互実習) 60 学齢期における個人指導①(小学校歯磨き教室概要・練習) 61 学齢期における個人指導②(小学校歯磨き教室 練習) 62 学齢期における個人指導③(小学校歯磨き教室 練習) 63 学齢期における個人指導④(小学校歯磨き教室 実施) 64 小窩裂溝填塞法(種類と特徴、実施上の注意、マネキン実習) 65 歯科衛生介入③(小窩裂溝填塞 相互実習) 66 歯科衛生介入③(小窩裂溝填塞 相互実習) 67 ライフステージ青年期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 68 スケーリング(手用スケーラーの種類と操作方法) 69 シクルスケーラーを使用したスケーリング①(上顎前歯部唇側 マネキン演習) 70 シクルスケーラーを使用したスケーリング②(下顎前歯部唇側 マネキン演習) 71 シクルスケーラーを使用したスケーリング③(上前歯部口蓋側 マネキン演習)							千葉 千葉 千葉 千葉 渡邊 渡邊 千葉 千葉 千葉 永橋 永橋 永橋 永橋 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 永橋 永橋 永橋 永橋 永橋 千葉 千葉 千葉 千葉
※ 演習授業については、科目担当教員(永橋・千葉・渡邊)が指導を行う。							
教本・参考図書				評価方法			
歯科衛生学シリーズ		歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版		前期	実技試験 (10点×3回実施＝30点)		
歯科衛生学シリーズ		歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学			実技試験 (70点) 合計100点		
歯科衛生学シリーズ		歯周病学		後期	実技試験 (10点×2回実施＝20点)		
					筆記試験 (80点) 合計100点		
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習となるため、指示に従い使用・保管すること 演習の際は、積極的に参加すること 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	口腔保健管理Ⅰ	時 期	1年 前期・後期	担当者	永橋 茜 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	5(200)	形 態	講義・実技・演習				
概 要							
口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。 1年次は、口腔の基礎知識、う蝕予防・歯周病予防の概念と内容、口腔内情報収集やスケーリング・歯面清掃・歯面研磨などの基本的な歯科衛生士介入の技術を身につける。							
到達目標							
1.口腔の健康像がわかる 2.う蝕・歯周病の原因およびプロセスを説明できる 3.歯・口腔の健康を増進させるための方法がわかる 4.各種ブラッシング方法を実施できる 5.口腔内情報収集を実施できる 6.フッ化物の種類、作用機序、取り扱い方法がわかる 7.ライフステージごとの口腔保健管理を説明できる 8.歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 9.小学生を対象とした個別指導能力を身につける 10.シックルスケーラーを適切に操作できる 11.超音波・エアスケーラーを適切に操作できる 12.う蝕活動性試験を説明できる 13.口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる 14.小窩裂溝填塞法を実施できる							
計画・(内容)							担 当
72 シックルスケーラーを使用したスケーリング③(下顎歯部舌側 マネキン演習) 73 ライフステージ成人期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 74 ライフステージ老年期(一般的・口腔の特徴、歯科衛生介入) 75 各ライフステージにおける口腔保健管理①(グループ演習) 76 各ライフステージにおける口腔保健管理②(グループ演習) 77 口腔内診査(DMFTの分類、染め出しの方法とPCRの計算) 78 歯科衛生介入③(口腔内診査:DMFT・PCR 相互実習) 79 歯科衛生介入③(口腔内診査:DMFT・PCR 相互実習) 80 シックルスケーラーを使用したスケーリング④(実技試験) 81 パワースケーラー①(種類と特徴、操作方法) 82 パワースケーラー②(取扱い方法、抜去歯牙演習) 83 パワースケーラー③(エアスケーラーによる歯石除去 相互実習) 84 パワースケーラー③(エアスケーラーによる歯石除去 相互実習) 85 パワースケーラー④(超音波スケーラーによる歯石除去 相互実習) 86 パワースケーラー④(超音波スケーラーによる歯石除去 相互実習) 87 シックルスケーラーのシャープニング(原則および目的、砥石の種類・方法) 88 歯科衛生介入④(シックルスケーラーを使用したスケーリング 相互実習) 89 歯科衛生介入④(シックルスケーラーを使用したスケーリング 相互実習) 90 学齢期の個人指導(患者設定 演習) 91 フッ化物の計算①(悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出、フッ化物洗口液の調整) 92 フッ化物の計算②(悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出、フッ化物洗口液の調整) 93 歯科衛生介入⑤(バキューム、ライティング 相互実習) 94 歯科衛生介入⑤(バキューム、ライティング 相互実習) 95 歯科衛生介入⑥(患者誘導、歯面研磨・歯面清掃 相互実習) 96 歯科衛生介入⑥(患者誘導、歯面研磨・歯面清掃 相互実習) 97 学齢期の個人指導(実技試験) 98 学齢期の個人指導(実技試験) 99 歯周病の分類(臨床的特徴と分類の進行プロセス) 100 歯周外科治療(目的と術式、適応症) ※ 演習授業については、科目担当教員(永橋・千葉・渡邊)が指導を行う。							千葉 永橋 永橋 永橋 永橋 渡邊 渡邊 渡邊 千葉 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 千葉 千葉 千葉 千葉 永橋 永橋 千葉 千葉 渡邊 渡邊
教本・参考図書				評価方法			
歯科衛生学シリーズ		歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版		前期 実技試験 (10点×3回実施＝30点)			
歯科衛生学シリーズ		歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学		実技試験 (70点) 合計100点			
歯科衛生学シリーズ		歯周病学		後期 実技試験 (10点×2回実施＝20点)			
				筆記試験 (80点) 合計100点			
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習となるため、指示に従い使用・保管すること 演習の際は、積極的に参加すること 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	診療補助Ⅰ	時 期	1年 前期・後期	担当者	奥 ひろみ 渡邊 恵里 三浦 伸子 水口 香	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	3 (120)	形 態	講義・実技・演習				
概 要 様々な、ライフステージにおける診療内容に対する介助や直接行為の基礎的な知識と技術を習得することで診療行為の集約をはかり診療の効率化に大きく寄与することができる能力と、実践力を養う。 1年生では、診療室での医療安全と感染予防対策の基礎と円滑なチーム医療を行なうための診療の補助業務、患者情報収集、歯科材料や器械の知識や取り扱いについて学び、アシスタントワーク・対面行為については保存修復・歯内療法を中心とした診療の知識、技術、態度を習得する。							
到達目標 - 診療の補助と介助の違いが説明できる - 歯科診療の補助における歯科衛生士の役割を説明できる - 各情報収集の方法がわかる - 共同動作の基本(バキューム・ライティング操作、フォーハンド、器具の受け渡し)を実践できる - 感染に応じた対応(消毒・滅菌・廃棄)ができる - スタンダードプレコーションがわかる - 医療事故に適切な対応ができる - 歯科材料(印象材・模型材料、仮封材、合着材、修復材料等)の基本的性質を説明できる - 歯科材料(印象材・模型材料、仮封材、合着材、修復材料等)の取扱いができる - 保存治療、歯内療法の補助のために必要な治療手順、薬剤・器材の使用方法を習得する							
計画・(内容)							担 当
前期 1 歯科診療補助総論(歯科診療補助とは、法的位置づけ)、医療安全と感染予防①(医療安全) 2 歯科診療の基礎知識 (診療室、歯科用チェアユニットでの対応) ロールプレイ 3 医療安全と感染予防② (感染予防) 4 医療安全と感染予防③ (手指衛生、薬品・歯科材料の管理) 5 医療安全と感染予防④ (滅菌と消毒) 6 医療安全と感染予防⑤ (医療廃棄物の取り扱い) 7 医療安全と感染予防③④ (手指衛生演習/滅菌と消毒、廃棄演習) 8 共同動作の基本① (器具の受け渡し、ポジショニング) 9 共同動作の基本② (バキューム、ライティング、スリーウェイ) 10 共同動作の基本② (バキュームマネキン演習) 11 共同動作の基本③ (ユニット操作演習) 12 実技試験① (バキューム挿入位置等) 13 共同動作の基本② (ライティング、ポジショニング演習) 14 共同動作の基本② (ライティング、ポジショニング演習) 15 共同動作の基本② (バキューム演習) 16 共同動作の基本② (バキューム演習) 17 実技試験② (ライティング、ポジショニング) 18 患者資料の収集① (口腔内規格写真撮影) 19 患者資料の収集① (口腔内規格写真撮影) 20 歯科材料の取り扱い (各種印象材について) 21 歯科材料の取り扱い (石膏について) 22 患者資料の収集② (アルジネート印象材の練和) 23 患者資料の収集② (アルジネート印象材の練和) 24 患者資料の収集② (アルジネート印象材の練和・盛り付け) 25 患者資料の収集② (スタディモデルの作製・マネキン演習) 26 患者資料の収集② (スタディモデルの作製・マネキン演習) 27 実技試験③ (アルジネート印象材の練和・盛り付け) 28 患者資料の収集② (スタディモデルの作製・相互演習) 29 患者資料の収集② (スタディモデルの作製・相互演習) 30 患者資料の収集② (スタディモデルの作製・石膏注入)							三浦 〃 〃 〃 〃 〃 〃 奥 〃 〃 〃 三浦 奥 〃 〃 〃 渡邊 奥 〃 渡邊 三浦 〃 〃 〃 渡邊 〃 三浦 渡邊 〃 〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 歯科衛生学シリーズ 歯科器械 歯科衛生学シリーズ 保存修復・歯内療法(※)				評価方法 前期 筆記試験 70点 実技試験 30点 ①②③ 合計 100点 後期 筆記試験 70点 実技試験 30点 ④⑤⑥ 合計 100点			
留意事項 授業時間内に確認問題を行う場合があります。 グループワーク及び発表には積極的に参加すること。 忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習に参加できません。 演習前には始業点検を終了しておくこと。 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること。 教本 (※)保存修復・歯内療法の診療補助の授業の際に使用します。							

教科名	診療補助Ⅰ	時 期	1年 前期・後期	担当者	奥 ひろみ 渡邊 恵里 三浦 伸子 水口 香	実務	歯科衛生士		
単位(時間数)	3 (120)	形 態	講義・実技・演習						
概 要									
様々な、ライフステージにおける診療内容に対する介助や直接行為の基礎的な知識と技術を習得することで診療行為の集約をはかり診療の効率化に大きく寄与することができる能力と、実践力を養う。 1年生では、診療室での医療安全と感染予防対策の基礎と円滑なチーム医療を行なうための診療の補助業務、患者情報収集、歯科材料や器械の知識や取り扱いについて学び、アシスタントワーク・対面行為については保存修復・歯内療法を中心とした診療の知識、技術、態度を習得する。									
到達目標									
- 診療の補助と介助の違いが説明できる - 歯科診療の補助における歯科衛生士の役割を説明できる - 各情報収集の方法がわかる - 共同動作の基本（バキューム・ライティング操作、フォーハンド、器具の受け渡し）を実践できる - 感染に応じた対応（消毒・滅菌・廃棄）ができる - スタンダードプレコーションがわかる - 医療事故に適切な対応ができる - 歯科材料(印象材・模型材料、仮封材、合着材、修復材料等)の基本的性質を説明できる - 歯科材料(印象材・模型材料、仮封材、合着材、修復材料等)の取扱いができる - 保存治療、歯内療法の補助のために必要な治療手順、薬剤・器材の使用方法を習得する									
計画・(内容)							担 当		
後期									
31 実技試験④ (概形印象採得)							渡邊		
32 寒天連合印象・歯肉排除							〃		
33 寒天連合印象・歯肉排除 (歯肉排除・寒天連合印象マネキン演習)							〃		
34 寒天連合印象 (寒天連合印象採得・講義)							三浦		
35 寒天連合印象 (寒天連合印象採得・相互演習)							〃		
36 寒天連合印象 (寒天連合印象石膏注入演習)							〃		
37 材料の取り扱い(シリコンラバー印象材講義)							渡邊		
38 材料の取り扱い(シリコンラバー印象材演習)							〃		
39 口腔内写真撮影(側面観)							〃		
40 ラバーダム防湿法							三浦		
41 保存修復の診療補助 (歯間分離・隔壁)							渡邊		
42 保存修復の診療補助 (歯間分離・隔壁)							〃		
43 保存修復の診療補助 (グラスアイオノマーセメント充填・Hys・研磨)							三浦		
44 保存修復の診療補助 (グラスアイオノマーセメント充填・Hys・演習)							〃		
45 保存修復の診療補助 (コンポジットレジン・接着システム講義)							渡邊		
46 保存修復の診療補助 (コンポジットレジン充填演習)							〃		
47 実技試験⑤(コンポジットレジン充填演習・時間内実技提出)							〃		
48 実技試験⑤(コンポジットレジン充填演習・時間内実技提出)							〃		
49 材料の取り扱い (仮封材講義)							三浦		
50 材料の取り扱い (仮封材演習)							〃		
51 歯科材料の取り扱い (綿花・・・ブローチ綿栓、洗浄用綿球作成)							渡邊		
52 材料の取り扱い (合着材、仮着材、接着材講義)							三浦		
53 材料の取り扱い (合着材、仮着材、接着材演習)							〃		
54 材料の取り扱い (合着材、仮着材、接着材演習)							〃		
55 実技試験⑥ (ブローチ綿花、合着材・仮封材練和)							渡邊・三浦		
56 歯内療法の診療補助 (Per、Pulの違いについて)							渡邊		
57 歯内療法の診療補助 (麻酔抜髄 講義)							〃		
58 歯内療法の診療補助 (麻酔抜髄 演習)							〃		
59 歯内療法の診療補助 (根管治療、根管充填 講義)							〃		
60 歯内療法の診療補助 (根管治療、根管充填 演習)							〃		
教本・参考図書					評価方法				
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論					前期	筆記試験	70点		
歯科衛生学シリーズ 歯科器械						実技試験	30点	①②③	合計 100点
歯科衛生学シリーズ 保存修復・歯内療法(※)					後期	筆記試験	70点		
						実技試験	30点	④⑤⑥	合計 100点
留意事項									
授業時間内に確認問題を行う場合があります。									
グループワーク及び発表には積極的に参加すること。									
忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習に参加できません。									
演習前には始業点検を終了しておくこと。									
演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること。									
教本 (※)保存修復・歯内療法の診療補助の授業の際に使用します。									

教科名	臨地・臨床実習	時 期	1年 後期	担当者	実習指導者 (登録者)	実務	歯科医師 歯科衛生士
単位(時間数)	2 (90)	形 態	実習				
概 要 ・ 臨床の場において歯科医療の実際を学び、治療の流れと歯科衛生士の役割を知る ・ 学校内で習得した技術を実践できる能力を養う ・ チーム医療の一員として歯科衛生士の自覚をもつ							
到達目標 ・ 歯科診療の流れ・歯科衛生士の役割がわかる ・ 患者誘導がスムーズにできる ・ 清潔・不潔を理解し、器具の準備・後始末ができる ・ 基本のバキューム・ライティング操作ができる ・ 保存修復・歯内療法に使用する器具器材の名称・用途がわかる							
計画・(内容) ※ 函館市内、近郊の歯科医院での実習 1日6時間 ・2月～3月 15日間							
教本・参考図書				評価方法 歯科診療所による評価なし 90時間の出席をすることで単位修得とする			
留意事項 体調管理を心がけ、欠席・遅刻・早退し実習時間が不足した場合は、公欠・忌引に関わらず補講実習を行う 実習中の服装・身だしなみには十分気をつけること 解らないことは積極的に質問し、意欲的に学ぶこと 実習記録については、実習先の歯科医院で見学した内容を記録すること 履修済みの臨床科目については復習しておくこと。また、アルバイトは入れないほうが好ましい							

教科名	接遇・マナー	時 期	1年 前期	担当者	小林 恵理子	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義・演習			
概 要 ・ビジネスマナーを身に付け、社会人として必要な知識・技能を習得する ・人に与える印象の重要性がわかる ・対人スキルについて理解する						
到 達 目 標 ・社会人として必要なビジネスマナースキルを身に付け、実践することができる ・挨拶を基本に、対人スキルについて理解し、実践できる						
計画・(内容) 1 ビジネスマナーの基本や社会人基礎力とは何かを理解する 2 第一印象の重要性、身だしなみについて 3 挨拶、態度、表情、しぐさ、お辞儀について実技を交えて習得する 4 社会人として言葉遣い・敬語・クッション言葉 5 始業・就業・離席のマナー 6 報告・連絡・相談の仕方とポイント 7 電話対応の基本 8 接遇応対						
教本・参考図書 改訂版 ビジネスマナー基本テキスト				評価方法 筆記試験100点		
留意事項 ・受け身にならず積極的に参加すること						

教科名	体 育	時 期	1年 前期・後期	担当者	佐々木 則子	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (40)	形 態	実 技		原崎 千鶴子	実務・ 一般
概 要						
・健康体力づくりの基礎知識を理解し、生涯を通じて健康の維持、増進するための実践方法を学ぶ (佐々木・原崎)						
・日常生活動作や運動時においての正しい姿勢の重要性を理解し、不良姿勢の改善方法を学ぶ (佐々木・原崎)						
到達目標						
1 立位、椅子座位、有酸素運動、筋力トレーニング(体幹トレーニング含む)、ストレッチなどの基本姿勢を習得し、正しいフォームで行うことができる (佐々木・原崎)						
2 個人、集団での実技を行うなかで、体を動かすことの楽しさ、爽快感などを体感し、日常生活動作や運動の重要性を知る (佐々木・原崎)						
計画・(内容)						担 当
前期						佐々木
1 姿勢モニタリング (ゆがみチェックと改善エクササイズ)ほぐし、ストレッチング						
2 STEP運動(ベーシック)、筋力トレーニング&ストレッチング(下肢)						
3 STEP運動(ベーシック)、筋力トレーニング&ストレッチング(下肢)						
4 STEP運動(ベーシック)、筋力トレーニング&ストレッチング(下肢)						
5 STEP運動(アームバリエーション)、筋力トレーニング&ストレッチング(上肢)						
6 STEP運動(アームバリエーション)、筋力トレーニング&ストレッチング(上肢)						
7 STEP運動(コンビネーション)、筋力トレーニング&ストレッチング(上肢)						
8 STEP運動(コンビネーション)、姿勢改善トレーニング						
9 復習						
10 筆記テスト・実技テスト						
後期						原 崎
11 フィットネステスト(今の自分の体力レベルを知ろう)&全身のストレッチング						
12 リズムウォーキング、筋力トレーニング、ストレッチング&姿勢改善エクササイズ						
13 エアロビクダンス(マーチ系)&体幹トレーニング、ストレッチング						
14 エアロビクダンス(ステップタッチ系)&体幹トレーニング、ストレッチング						
15 エアロビクダンス(ハイインパクト系)&体幹トレーニング、ストレッチング						
16 エアロビクダンス(コンビネーション)&体幹トレーニング、ストレッチング						
17 エアロビクダンス(フォーメーション)&体幹トレーニング、ストレッチング						
18 エアロビクダンス(リズムチェンジ)&体幹トレーニング、ストレッチング						
19 復習						
20 筆記テスト・実技テスト						
教本・参考図書				評価方法		
公益社団法人日本フィットネス協会発行書籍				筆記試験(20点) 課題提出レポート(30点) 実技試験(50点) 【佐々木】		
				筆記試験(20点) 課題提出レポート(30点) 実技試験(50点) 【原崎】		
				各合計100点		
留意事項						
・①ジャージ ②シューズ ③水分 ③タオル ④筆記用具						
・授業は積極的に参加・発言すること						

教科名	学級コミュニケーション	時 期	1年 前期・後期	担当者	三浦伸子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	2 (80)	形 態	講義 ・ 演習		専任教員		
概 要							
思いやりの心を持ち、円滑な人間関係を構築するためコミュニケーションスキルやホスピタリティマナーを身につけ豊かな人間性と社会性を育むことができることを目的とする 定期試験や資格試験、国家試験にむけた学習方法がわかるための対策を行う							
到 達 目 標							
学校生活や学校行事などを通しクラスメイトとの親睦を深める 円滑な人間関係構築のため、また歯科衛生士として必要なコミュニケーション能力を身につける グループエンカウンターを通じて自己開示と他者理解を深める 定期試験・資格試験・国家試験に向けて自分に合った学習方法を見つけ、日々の学習する習慣を身につける							
計画・(内容)							担 当
1	クラス役員選出(クラス役員・係)						三浦
2	個人目標設定・クラス目標(KJ法)						〃
3	人間関係(人間関係を築くエンカウンターを行う)						〃
4	春のレクリエーションについて(レクの内容、グループ分け等)						〃
5	学習について(学習担当よりノートの取り方 等)						〃
6	QU1回目(学級満足度調査の実施)						〃
7	人間関係(人間関係を築くエンカウンターを行う)						〃
8	一般教養						〃
9	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						〃
10	学習(資格試験に向けた対策)						〃
11	学習(資格試験に向けた対策)						〃
12	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						〃
13	スポーツレクリエーションについて(内容決め)						〃
14	スポーツレクリエーションについて(班決め)						〃
15	スポーツレクリエーション反省・学習(定期試験にむけた対策)						〃
16	人間関係(クラスの状況に合わせたエンカウンターを行う)						〃
17	人間関係(自己肯定感を高めるエンカウンターを行う)						〃
18	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						〃
19	学習(資格試験に向けた対策)						〃
20	夏休みの過ごし方(学習について・ボランティア活動 等)						〃
※内容により担当が替わること有り							
教本・参考図書				評価方法 定期試験 なし 単位修得の為の出席確認			
留意事項 グループワーク及び発表には積極的に参加すること 行事では積極的に行動し、楽しむこと また、全員が楽しめるよう周囲の状況をよく観察し工夫すること。 学校行事の準備は全員で協力し合うこと 最低、月に一度は5Sを実施する 20回のうち数回はゼミ方式で行う							

教科名	学級コミュニケーション	時 期	1年 前期・後期	担当者	三浦伸子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	2 (80)	形 態	講義 ・ 演習		専任教員		
概 要							
思いやりの心を持ち、円滑な人間関係を構築するためコミュニケーションスキルやホスピタリティマナーを身につけ豊かな人間性と社会性を育むことができることを目的とする 定期試験や資格試験、国家試験にむけた学習方法がわかるための対策を行う							
到達目標							
学校生活や学校行事などを通してクラスメイトとの親睦を深める 円滑な人間関係構築のため、また歯科衛生士として必要なコミュニケーション能力を身につける グループエンカウンターを通じて自己開示と他者理解を深める 定期試験・資格試験・国家試験に向けて自分に合った学習方法を見つけ、日々の学習する習慣を身につける							
計画・(内容)							担 当
21	前期反省・後期目標 後期クラス役員改選(クラス役員・係)						三浦
22	秋のレクリエーション(レクの内容、グループ分け等)						〃
23	人間関係(クラスの状況に合わせたエンカウンターを行う)						〃
24	一般教養						〃
25	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						〃
26	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						〃
27	人間関係(クラスの状況に合わせたエンカウンターを行う)						〃
28	一般教養						〃
29	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						〃
30	学校祭反省、人間関係(クラスの状況に合わせたエンカウンターを行う)						〃
31	QU2回目(学級満足度調査の実施)						〃
32	人間関係(自己肯定感を高めるエンカウンターを行う)						〃
33	状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)						〃
34	学習(定期試験にむけた対策)						〃
35	学習(定期試験にむけた対策)						〃
36	決意式について①(内容・クラス・個人目標)						〃
37	決意式について②(準備等)						〃
38	決意式について③(作成物 等)						〃
39	歓送会・激励会(内容決め・準備)						〃
40	SNSについて、臨床実習にむけて(SNSの危険性を認識すること・臨床実習に向けた心構え)						〃
※内容により担当が替わること有り							
教本・参考図書				評価方法 定期試験 なし 単位修得の為の出席確認			
留意事項 グループワーク及び発表には積極的に参加すること 行事では積極的に行動し、楽しむこと また、全員が楽しめるよう周囲の状況をよく観察し工夫すること 学校行事の準備は全員で協力し合うこと 最低、月に一度は5Sを実施する 20回のうち数回はゼミ方式で行う							

2年生

.....

教 育 課 程

分野	教育内容	学科目	単位数	時間数	1年	2年	3年
基礎	科学的思考の基礎	生物	2	30	30		
		情報処理	2	30	30		
		衛生統計	1	15		15	
	人間と社会の理解	英語コミュニケーション	1	20	20		
		心理学Ⅰ	1	20	20		
		心理学Ⅱ	1	20		20	
		国語表現	2	30	30		
	小計		10	165	130	35	
専門基礎	人体(歯と口腔を除く)の構造と機能	解剖・生理	3	45	45		
		生化学	1	15	15		
	歯・口腔の構造と機能	口腔組織	1	15	15		
		口腔生化学	1	15	15		
		口腔解剖	2	30	30		
		歯牙解剖	1	15	15		
		口腔生理	1	15	15		
		疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	2	30	30	
	薬理学		2	30		30	
	微生物学		2	30	30		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	保健生態学Ⅰ	2	30	30		
		保健生態学Ⅱ	3	45		15	30
		衛生行政	1	15			15
		社会福祉	1	15			15
小計		23	345	240	45	60	
専門	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論	1	15	15		
		歯科医療倫理	1	15		15	
	臨床歯科医学	保存修復	1	20	20		
		歯内療法	1	20	20		
		歯周疾患	1	30	30		
		放射線	1	30		30	
		歯科補綴	1	30		30	
		矯正歯科	1	30		30	
		小児歯科	1	20		20	
		口腔外科	2	40		40	
		障がい者歯科	1	15		15	
		高齢者・有病者歯科	1	30		30	
	歯科予防処置論	口腔保健管理Ⅰ	5	200	200		
		口腔保健管理Ⅱ	4	160		160	
	歯科保健指導論	口腔保健管理Ⅲ	2	80			80
		栄養指導	1	30			30
		摂食嚥下	1	15		15	
		口腔リハビリテーション	1	20		20	
		地域包括ケア	1	15			15
	歯科診療補助論	診療補助Ⅰ	3	120	120		
		診療補助Ⅱ	2	80		80	
診療補助Ⅲ		1	40			40	
看護学		1	30		30		
介護概論		1	15		15		
介護技術		1	40		40		
臨地・臨床実習	臨地・臨床実習	20	900	90	360	450	
小計		57	2040	495	930	615	
選択必修	選択・必修分野	接遇・マナー	1	15	15		
		体育	1	40	40		
		歯科医療事務	2	40			40
		学級コミュニケーション	4	160	80	40	40
		課題研究	2	60		30	30
		総合講義	4	120			120
	小計		14	435	135	70	230
合計		104	2985	1000	1080	905	

※ 1単位・・・講義 15～30時間

実技・演習 40時間

実習 45時間

授 業 進 度 表

		2年前期				
科目	頁	4月	5月	6月	7月	8月
衛 生 統 計	38					
心 理 学 II	39					
薬 理 学	40					
保 健 生 態 学 II	41					
歯 科 医 療 倫 理	42					
放 射 線	43					
歯 科 補 綴	44					
矯 正 歯 科	45					
小 児 歯 科	46					
口 腔 外 科	47					
障 が い 者 歯 科	48					
高 齢 者・有 病 者 歯 科	49					
口 腔 保 健 管 理 II	50-52					
摂 食 ・ 嚥 下	53					
口腔リハビリテーション	54					
診 療 補 助 II	55					
看 護 学	56					
介 護 概 論	57					
介 護 技 術	58					
臨 地・臨 床 実 習	59					
学級コミュニケーション	60					
課 題 研 究	61					

教科名	衛生統計	時 期	2年 前期	担当者	岩井 祐司	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義		山崎 幸路	実務・一般	
概 要 ・ 歯・口腔の健康と予防のため、保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。(岩井) ・ パソコンを用いた、衛生統計の求め方を習得する。(山崎)							
到達目標							
1 EBMを説明できる(岩井) 2 国家保健統計を説明できる(岩井) 3 調査方法・研究方法を分類し、説明できる(岩井) 4 スクリーニング検査を説明できる(岩井) 5 標本抽出法を説明できる(岩井) 6 代表値や散布度を説明できる(岩井) 7 検定を説明できる(岩井) 8 図表を説明できる(岩井) 9 個人情報保護を説明できる(岩井) 10 収集したデータをもとに、エクセルを使い各種統計情報を求めることができる(山崎)							
計画・(内容)							担 当
1 保健情報と保健統計学(データと情報、保健情報の種類、国家統計調査)							岩 井
2 スクリーニング抽出法(疾病と検査との関係)							〃
3 保健統計の方法(統計へのスタンスと目標、実例)							〃
4 検定(選択と実際)							〃
5 情報の保護と倫理 (情報社会の犠牲と問題点、情報の開示と個人情報の保護、インターネットと情報倫理[情報モラル])							〃
6 教本第5章より、Excelによる関数とデータ分析機能 (基本統計量:平均、中央値、標準偏差、分散など)							山 崎
7 教本第6章より、Excelによる関数とデータ分析機能 (各種検定:t検定やx(カイ)二乗検定など)							〃
8 教本第6章より、Excelによる図表の作り方 (棒グラフ、ヒストグラム、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、散布図、相関図、レーダーチャート、地図図表、絵グラフ)							〃
教本・参考図書 ・ 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 ・ 必要に応じてプリント、データ配布(山崎)				評価方法 ・ 筆記試験 70点 【岩井】 ・ 小テスト3回 各10点 【山崎】 合計 100点			
留意事項 ・ 配布された授業データとOfficeのログインを教室内PCで確認しておくこと。【山崎】							

教科名	心理学Ⅱ	時 期	2年 後期	担当者	藤村 敦	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義			
概 要						
歯科衛生士は、患者や職場内において良好な人間関係を築くことが求められる。本講義は、1年次の「心理学Ⅰ」で学んだコミュニケーションスキルに関する知識や、心理学に関する主要な理論を基盤とした学習を行う。臨床場面におけるコミュニケーションの具体的な方法や、コミュニケーションを行う際に配慮することが必要となるであろう、こころの発達等に関する各種理論についての学習を行う。具体的な演習などを通して、人間関係づくりに必要なスキルについて具体的に理解することができるような講義とする。						
到達目標						
1. こころの発達の様相や各発達段階における課題について理解し、説明することができる。 2. 対人援助に必要な技法について説明できるとともに、各技法を臨床場面に当てはめて考えることができる。 3. 対人関係に関する主要な理論について説明することができる。						
計画・(内容)						
1. オリエンテーション、発達するこころ(1)①(「発達」を考える) 2. 発達するこころ(1)②(発達段階と発達課題、乳幼児期から児童期のこころの発達) 3. 発達するこころ(1)③(神経発達症群/神経発達障害群Ⅰ：知的能力障害等の理解と対応) 4. 発達するこころ(1)④(神経発達症群/神経発達障害群Ⅱ：自閉症スペクトラム等の理解とその対応) 5. 発達するこころ(2)(青年期、成人期、高齢期) 6. 人とかわる心理(対人認知、帰属理論、対人魅力-好き・きらいの心理-) 7. 人と集うこころ(集団の心理、リーダーシップ、社会的影響)、小テスト 8. 健康なこころ(メンタルヘルス、心理臨床の対象、心理療法のいろいろ) 9. カウンセリングのこころ(カウンセリングとは、カウンセリングマインド、ロジャーズの基本姿勢を取り入れた介入法) 10. 思いを伝え合うこころ(医療コミュニケーションの基礎、コミュニケーション・スキル、特殊な場面でのコミュニケーション・スキル)、小レポート課題作成						
教本・参考図書 最新歯科衛生士教本 心理学				評価方法 授業内小テスト(20%)、小レポート(20%)授業内演習課題(60%)を基にして総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。		
留意事項 ・教科書は、1年次の心理学Ⅰで使用したものを引き続き使用。						

教科名	薬 理 学	時 期	2年 前期	担当者	熊川 雅樹	実務・一般	薬剤師
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講 義		林 友翔	実務・一般	歯科医師
概 要 ・ 薬の作用を理解し、体における薬の働きを知る。(熊川) ・ 歯科臨床上重要な薬物の薬理作用とその作用機序、薬物動態、臨床的応用と副作用、毒性ならびに薬剤の取扱い方法を学習する。(林)							
到達目標 1 薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する基本的知識がわかる(熊川) 2 う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる(林) 3 歯・歯髄疾患に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる(林) 4 歯周治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用・洗口薬について説明できる(林) 5 服薬に関する一般的事項を説明できる。対象者別の服薬指導を説明できる(林)							
計画・(内容)							担 当
1 総論① (薬物の作用、薬物動態)							熊 川
2 総論② (薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える要因、薬物の副作用・有害作用)							〃
3 総論③ (医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品)							〃
4 ビタミン剤とホルモン剤 末梢神経系に作用する薬物 (種類・副作用)							〃
5 中枢神経系に作用する薬物 (種類・副作用)							〃
6 循環器・腎臓・呼吸器・消化器に作用する薬物 (種類・副作用)							〃
7 血液・免疫・悪性腫瘍・代謝性疾患に作用する薬物 (種類・副作用)							〃
8 炎症と痛み作用する薬物 (種類・副作用)							〃
9 局所麻酔薬と感染症に作用する薬物 (種類・副作用)							〃
10 漢方医学 (作用・種類)							〃
全体のまとめ							
※ 2～10は小テストを行います (熊川)							
11 歯科薬理学概論							林
12 う蝕の予防に用いる薬物 (フッ化物の応用法と代用甘味料)							〃
13 歯・歯髄疾患の治療に用いる薬物							〃
14 歯周治療に用いる薬物							〃
15 服薬指導							〃
※ 11～14は、確認問題を行います。(林)							
教本・参考図書 ・ 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 ・ 配布プリント				評価方法 ・ 筆記試験(55%) 小テスト(45%) 合計70点 【熊川】 ・ 筆記試験(30点) 【林】 合計 100点			
留意事項 ・ 2回目の講義より行なう小テストは、毎回5点が総点数に含まれるため、しっかりと復習すること。(熊川)							

教科名	保健生態学Ⅱ	時 期	2年 前期	担当者	加藤 元康	実務・一般 歯科医師
					岩井 祐司	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義		奥 ひろみ	実務・一般 歯科衛生士

概 要

保健生態学は、衛生学・公衆衛生学および口腔衛生学を一連のものとして捕らえた学問です。その内容は3編に分割して、Ⅰ編『健康を左右する環境』、Ⅱ編『歯・口腔の健康と予防』、Ⅲ編『健康に関わる地域の役割』となっております。この授業では、Ⅰ編『健康を左右する環境』について学びます。主として衛生学を取り扱い、健康と予防医学の概念および人間を取巻く自然的・社会的要因と健康との関係について学びます。なお、第5、6章については、3年次の保健生態学Ⅱの授業にて学ぶ。

到達目標

- 1 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの概要を説明できる(奥)
- 2 予防医学の概念を説明できる(奥)
- 3 世界および日本の人口推移、人口統計・死亡統計・生命表を説明できる。(加藤)
- 4 人における環境の重要性、一方、環境破壊に起因する公害および廃棄物への対応について理解し、説明できる。(加藤)
- 5 疫学の歴史、研究方法を理解し、発生因子、疾病の進行の指標を説明できる(岩井)

計画・(内容)

担当

《Ⅰ編 健康を左右する環境》

第1章 総論

- ## 1 保健生態学の定義と健康の概念 (WHOの憲章とプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションを学ぶ)

奥

第2章 疫学

- ## 2 疫学の定義および概要 (疫学とは・発生因子・指標)

岩 井

- ### 3 疫学の方法（記述疫学・分析疫学）

"

- #### 4 疫学の方法（介入研究）

"

第3章 人口

- 5 人口において人口統計、人口構造および死亡に関する統計を学ぶ。小テスト①

加藤

- 6 生命表より平均余命および平均寿命の動向について学ぶ。 小テスト②

"

第4章 健康と環境

- 7 環境(空気・水・気候・放射線・住居・衣服)と健康について学ぶ。 小テスト③

加藤

- 8 地球温暖化に伴う変化や公害および(感染性・非感染性)廃棄物が健康に及ぼす影響とその原因物質について学ぶ。 小テスト④

"

教本・参考図書

歯科衛生学シリーズ

歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学

評価方法

筆記試験 10点

筆記試験 45点 小テスト4回 5点 【加藤】

筆記試験 40点

合計 100点

留意事項

授業はオムニバス形式につき、上記計画(内容)は授業の順とは異なります。

授業の進行は、時間割にて確認してください。

グループディスカッションの際には、積極的に参加すること。

教科名	歯科医療倫理	時 期	2年 前期	担当者	奥 ひろみ	実務・一般 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要						
現在の医療のあり方は、医師中心の倫理観を根底とした伝統を覆すがごとく、患者中心とした《患者－医療従事者》間の密接した関係性を重視する新たな医療倫理の展開が重要視されている。 本講義では、歯科衛生士という医療現場における専門職の一員として、倫理的判断に基づいた対人援助行動について学ぶ。また、歯科医療における様々な問題について考える。						
到達目標						
1. 医療従事者の職業倫理に関する規範と、患者の権利について概説できる。 2. インフォームド・コンセントの倫理的意義について述べるができる 3. 生活行動と保健行動について説明できる 4. 歯科医療におけるQOLの向上について説明できる						
計画・(内容)						
1. 第1章 なぜ医療倫理を学ぶのか 医療従事者の基本義務と患者中心の医療について						
2. 第2章 医療倫理に関する規範とバイオエシックス 医療従事者の職業倫理に関する規範と、患者さんの権利について学ぶ						
3. 第2章 医療倫理に関する規範とバイオエシックス バイオエシックス(生命倫理学)に関わる問題として、生命の始まりと終わりに関わる様々な倫理的問題について学び、ディスカッションを通じて理解を深める						
4. 第3章 インフォームド・コンセント インフォームド・コンセントと、患者中心の医療について事例から考える						
5. 第4章 研究と医療倫理 研究と医療倫理の関わりと倫理的配慮の要件として、特に歯科衛生性研究に必要な倫理指針について学ぶ						
6. 付章 歯科医療を考えるうえで必要な行動 患者の行動について考える						
7. 付章 歯科医療を考えるうえで必要な行動 歯科医療従事者の行動について考える						
8. 付章 歯科医療を考えるうえで必要な行動 演習 Case Study10～14について						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学				評価方法 筆記試験1回 100点満点		
留意事項 授業の多くはグループディスカッションです。 ディスカッションは周囲の意見を聞きながら、自分の考えを整理する機会でもあります。積極的に参加してください。						

教科名	放 射 線	時 期	2年 前期	担当者	中川 雅永	実務 ・ 一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義 ・ 演習		西川 卓志	実務 ・ 一般	歯科医師
概 要 ・放射線についての基礎知識および、歯科におけるエックス線写真の特徴・撮影法・読影について学ぶ(中川) ・講義と実習を通じて、撮影の種類、位置づけ、アナログ、デジタル現像を学ぶ(西川) その補助について学ぶ(西川)							
到達目標 1 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。(中川) 2 エックス線画像の形成原理を概説できる。(中川) 3 口内法エックス線写真とパノラマエックス線写真の概要を表記できる。(中川) 4 う蝕と歯周病および、顎骨に生じる病変のエックス線所見を概説できる。(中川) 7 規格性のある正しい位置づけを理解できる。(西川) 8 アナログとデジタルの現像の違いを理解できる。(西川) 9 術者(歯科医師)の補助ができるように、その原理を理解し、撮影の実際と補助を学ぶ。(西川)							
計画・(内容)							担 当
1 放射線の基礎(放射線とその性質)							中 川
2 放射線の人体に対する影響、放射線の防護(線量の単位、放射線の概念)							〃
3 エックス線画像の形成、歯科におけるエックス線検査の種類(口内法・口外法・デジタルエックス線撮影法)							〃
4 口内法エックス線撮影法(二等分法・平行法・咬翼法・咬合法)							〃
口外法エックス線撮影法(パノラマエックス線撮影法、その他の検査法)							〃
5 口内法エックス線撮影法の実際(準備・読影)							〃
6 パノラマエックス線撮影法の実際(準備・読影)							〃
7 臨床症例によるエックス線写真読影(歯および歯周組織、顎骨の解剖・歯科疾患、修復物、補綴物の見方)							〃
8 歯科エックス線写真における臨床応用問題(国家試験過去問題による復習)							〃
9 基本的事項の講義(撮影の種類、位置づけ、アナログ、デジタル)							西 川
10 読影の仕方(正常像と疾患がある像の比較)							〃
11 上顎前歯撮影(自動現像機使用)、暗室の説明							〃
12 パノラマ撮影、咬翼法(デジタル)							〃
13 読影の実際							〃
14 読影							〃
15 復習とレポート							〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学				評価方法 ・筆記試験 (50点) 【中川】 ・レポート(15回目授業内提出) (50点) 【西川】 合計 100点			
留意事項 ・授業の始めに前回授業内容の「復習チェック」を実施する(中川) ・講義や実習中に答えがあるのでよく聞いて下さい(西川)							

教科名	歯科補綴	時 期	2年 前期	担当者	北條 拓也	実務 ・ 一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講 義		額賀 英之	実務 ・ 一般	歯科医師
					澤頭 優博	実務 ・ 一般	歯科技工士
概 要 ・ 補綴歯科治療に関する基礎知識を身につけ、国家試験範囲を網羅し、補綴歯科治療をイメージできるよう学びを深める為の授業とし同時に補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を理解することを目的とする。 ・ 歯科技工士が模型上で行う、補綴物の製作工程を学ぶ。(澤頭) ・ 口腔内で補綴物が不適合になる主原因である印象・石膏模型の変形、寸法変化の原因と対策を学ぶ。(澤頭)							
到 達 目 標 1.補綴歯科治療の流れを理解し、円滑な介助・説明ができる 2.補綴装置に使用される名称・役割を理解する 3.各種装置の具体的な作製手順・使用器材を覚え、実際の臨床で活用できる 4.義歯の具体的な製作手順・使用器材を覚え、実際の臨床で活用できる 5.CAD/CAM等の新技術を理解する 6.スポーツ外傷の予防法を理解し、スポーツ選手への歯科衛生士としての役割を覚える 7.技工物の製作工程を理解する (澤頭) 8.印象・石膏の正しい取り扱い方を理解する (澤頭)							
計画・(内容)							担 当
1 歯科補綴の概要・補綴歯科治療の基礎知識(補綴歯科治療の意義と目的、歯列弓の形態とその対合関係)							北 條
2 咬合様式と顎運動・歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療(咬合様式と下顎運動、歯列・咬合・口腔の変化と障害)							〃
3 咬合と顎関節症(顎関節の構造と主な機能、顎関節の異常)							〃
4 補綴装置の種類とその構造(クラウン・ブリッジの分類と特徴)							〃
5 固定性補綴装置・可撤性補綴装置(全部床義歯・部分床義歯の分類と構造、特殊な義歯)							〃
6 補綴歯科治療における検査・診断(医療面接と診察、各種検査)							〃
7 クラウン、ブリッジ治療の実際(クラウン、ブリッジ治療の流れ、メンテナンス)							〃
8 全部床義歯の概要と検査・診断							額 賀
9 全部床義歯の治療の流れと管理							〃
10 部分床義歯の概要と検査・診断							〃
11 部分床義歯の治療の流れと管理							〃
12 補綴治療に用いる器材							〃
13 インプラント治療・CAD/CAM(基本構造、治療の流れ、メンテナンス)							〃
14 スポーツ外傷の予防、歯科衛生士の役割							〃
15 補綴物の製作における技工作業工程について 印象・石膏の正しい取り扱いについて CAD、光学スキャナー(光学印象)によるチェアサイドと技工サイドの関係の変化について							澤 頭
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴				評価方法 筆記試験 100点【北條・額賀】			
留意事項 必要な時に復習問題を行い、補綴用語を理解しているか確認をする							

教科名	矯正歯科	時 期	2年 前期	担当者	大内 英樹	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講 義		勝又 茂	実務・一般 歯科医師
概 要						
・ 歯科矯正学を通じて歯科全般についての理解力を高める (大内) ・ 教本並びに実際に使用している矯正装置及び器具を用い、授業の達成をはかる (勝又)						
到達目標						
1 顎、口腔、顔面の成長・発育を理解する(大内) 2 矯正力と生体反応を理解する(大内) 3 矯正診断・症例分析が理解できる(大内) 4 各不正咬合における矯正治療の流れを把握し説明できる (勝又) 5 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割を理解し説明できる (勝又)						
計画・(内容)						担 当
1 矯正治療とは (歴史と概要)						大 内
2 成長発育① (全身と顎顔面)						〃
成長発育② (歯列)						
3 正常咬合と不正咬合						〃
4 矯正診断 (模型分析とセファロ分析)						〃
5 歯の移動① (顎整形力と矯正力)						〃
6 歯の移動② (歯の移動様式)						〃
7 先天奇形と外科矯正 (保険での矯正治療)						〃
8 矯正装置の種類						勝 又
(可撤式矯正装置、固定式矯正装置、機能的矯正装置、拡大装置、顎外固定装置、口腔習癖除去装置、保定装置)						
9 これまでの復習としてのテスト						大内
10 歯科矯正治療の実際 ①上下顎の前後的関係の不調和						勝又
11 〃 ②上下顎の垂直的關係の不調和						〃
12 〃 ③成人矯正						〃
13 〃 ④矯正歯科治療のトラブルへの対応						〃
14 矯正歯科における歯科衛生士の役割 (矯正歯科診療時の業務)						〃
15 まとめ (国家試験問題による復習)						〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正				評価方法 筆記試験(50点) 【大内】 筆記試験(50点) 【勝又】 合計 100点		
留意事項						

教科名	小児歯科	時 期	2年 前期	担当者	本間 康裕	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講 義			
概 要						
小児歯科は治療の対象が成長を続ける小児であることから、一口腔内一単位として治療を行い、口腔領域の正常な成長発育を阻害する口腔疾患や異常などを治療、または予防し、発育変化を適切に対応し長期管理を行う。子供や保護者との対応の他、治療並びに予防を進めるためには、歯科衛生士の役割も大きな比重を占める。それら衛生士業務を行うために必要な、小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を学ぶ。						
到達目標						
1 小児の身体的成長発育、心理的発達が理解できる。 2 歯の発育、歯列・咬合の発育が理解できる。 3 小児う蝕の特徴、う蝕予防が理解できる。 4 小児における歯科疾患、並びに処置(修復、歯内療法、外科、咬合誘導)が理解できる。 5 小児および保護者への対応法が理解できる。						
計画・(内容)						
1 小児歯科学概論・心身の発育 (発育段階と口腔内の変化について概要的に学ぶ。また、身体発育の特徴および精神発達についても併せて学ぶ。)						
2 小児の生理的特徴・顔面頭蓋の発育 (小児のバイタルサインと生理的特徴を学ぶ。また、顔面頭蓋の発育と歯の萌出との関係についても学ぶ。)						
3 歯の発育とその異常・歯列咬合の発育と異常 (歯の発育(乳歯・幼若永久歯)および歯列・咬合の発育と異常を学ぶ。)						
4 小児の歯科疾患 (小児にみられるう蝕と歯周疾患、軟組織の異常と疾患について学ぶ。)						
5 小児期の特徴と歯科の問題点 (乳幼児期・学童期・思春期小児の特徴、留意点と歯科疾患について学ぶ。)						
6 小児歯科における診療体系 (小児歯科診療の特徴とその実際について学ぶ。)						
7 小児における患者との対応法・障害児の歯科治療 (小児歯科における患者との対応法と障害児歯科治療の留意点や対応法を学ぶ。)						
8 診察・検査時の業務・う蝕予防 (小児歯科診療における診療・検査時の歯科衛生士の役割、う蝕の予防法と食生活指導について学ぶ。)						
9 小児歯科診療における診療補助・小児の口腔保健管理・歯科診療室の機材と管理 (小児歯科診療の流れと歯科衛生士の役割を理解し、必要器材とその取り扱いについて学ぶ。) (年齢区分に応じた口腔保健管理について学ぶ。)						
10 総まとめ (小児歯科授業のまとめ、要点の確認)						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学				評価方法 ・筆記試験 100点		
留意事項						

教科名	口腔外科	時 期	2年 前期	担当者	白石 剛士	(実務)・一般	歯科医師	
					村田 真介	(実務)・一般	歯科医師	
単位(時間数)	2 (40)	形 態	講 義		川瀬 敬	(実務)・一般	歯科医師	
					南田 秀之	(実務)・一般	歯科医師	
					深瀬 寛也	(実務)・一般	歯科医師	
					渡邊 佳子	(実務)・一般	歯科衛生士	
概 要								
・う蝕、歯周疾患以外に顎口腔領域に発生する、各種疾患に対する基本的な知識を学ぶ。また、口腔外科的処置の際に留意すべき全身疾患の種類や注意点について、基本的な知識を学ぶ (白石) ・口腔外科治療の流れと診療上の注意点を理解し、安全で安心な歯科医療を提供する知識を学ぶ (村田) ・口腔インプラント治療を理解する上で必要な知識、手技の概要を習得し、インプラント治療の特徴を学ぶ (川瀬) ・がん手術、心臓・循環器手術や臓器移植等の手術患者において、口腔衛生状態の管理が術後感染や肺炎等の合併症予防に有効であることを学ぶ(南田) ・災害時の保健医療活動を学ぶ (深瀬) ・口腔外科における歯科衛生士の関わりや基本的な小手術の術式を理解する (渡邊)								
到 達 目 標								
1 歯科・口腔外科疾患の治療に影響を与える全身疾患について、説明ができる (白石) 2 口腔外科疾患の種類をあげて、大きく分類ができる (白石) 3 各種口腔外科疾患の症状、治療法を説明できる。(白石) 4 バイタルサインの重要性と局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔の特徴がわかる (村田) 5 救急蘇生法の理論を身につける (村田) 6 それぞれの口腔外科小手術に必要な機械器具の特徴を理解する (村田) 7 口腔インプラント治療の特徴を理解し、利点・欠点を説明できる (川瀬) 8 インプラント治療における術式・介助の要件がわかる (川瀬) 9 口腔インプラント治療の補綴方法、メンテナンスの特徴や手技がわかる (川瀬) 10 周術期口腔機能管理の流れがわかる(南田) 11 手術前、後におけるトラブルや感染予防等の口腔管理を説明できる (南田) 12 大規模災害時の保健医療対策を理解し、歯科保健活動を概説できる (深瀬) 13 小手術の術式と留意点を理解し、患者指導ができる (渡邊)								
計画・(内容)							担 当	
1 〔 概論 (口腔外科疾患の定義、分類や歯科・口腔外科診療で問題となる基礎疾患について) 顎・口腔領域の先天異常と発育異常の基礎知識 (唇顎口蓋裂と顎変形症)							白 石	
2 〔 口腔領域の損傷の基礎知識 (軟組織の外傷と骨折) 口腔粘膜病変の基礎知識 (口腔粘膜病変の種類と症状)							〃	
3 〔 口腔領域に症状を示す血液疾患の基礎知識 (血液疾患の種類と症状) 顎・口腔領域の嚢胞性疾患の基礎知識 (顎骨・軟組織に発生する嚢胞)							〃	
4 〔 顎・口腔領域の腫瘍(良性と悪性)および腫瘍類似疾患の基礎知識 (種類と症状) 唾液腺疾患の基礎知識 (唾液腺疾患の種類と症状)							〃	
5 〔 口腔領域の神経性疾患の基礎知識 (神経性疾患の種類と症状) 顎・口腔領域の炎症性疾患の基礎知識 (炎症性疾患の種類と症状)							〃	
6 口腔外科の診療補助 (小手術の術式と説明、使用機材) ①							渡 邊	
7 歯科治療における歯科麻酔と患者管理							村 田	
8 局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔							〃	
9 口腔外科の診療補助(小手術の術式と説明、使用機材) ②							渡 邊	
10 歯科治療時の局所的偶発症、全身的偶発症							村 田	
11 救急蘇生法							〃	
12 口腔外科治療の流れと口腔外科小手術							〃	
13 口腔インプラント学の基礎知識							川 瀬	
14 口腔インプラント治療 (診査・診断)							〃	
15 〃 (外科処置)							〃	
16 口腔インプラント治療 (補綴処置)							〃	
17 周術期における口腔機能管理 (概要、病態、化学療法・放射線治療など)							南 田	
18 口腔インプラント治療 (メンテナンス・合併症)							川 瀬	
19 周術期における口腔機能の実際 (歯科介入、症例等)							南 田	
20 災害時の保健医療活動 (災害時における検死の実例と作業内容、手順、東日本大震災時の保健活動の実例)							深 瀬	
教本・参考図書				評価方法				
歯科衛生学シリーズ				・筆記試験 30点				【白石】
口腔外科・歯科麻酔学				・筆記試験 30点				【村田】
インプラント入門				・筆記試験 25点				【川瀬】
				・筆記試験 10点				【南田】
				・筆記試験 5点				【渡邊】
				合計 100点				
留意事項								

教科名	障がい者歯科	時 期	2年 前期	担当者	藤巻 英里	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1(15)	形 態	講 義		渡邊 恵里	実務・一般 歯科衛生士
概 要						
- 身体的、知的あるいは精神的な障がいがある人に対し、不安や恐怖、リスクが伴う歯科治療が円滑に行えるよう、歯科衛生士として障がいの身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する(藤巻) - 障がい者歯科と地域医療連携の必要性和歯科衛生士の役割を学ぶ(渡邊) - スペシャルニーズおよび障がいのある人と医療・福祉制度について学ぶ(渡邊)						
到達目標						
1 障がいの概念を理解し、その種類・歯科的特徴および歯科保健医療の留意点を説明できる(藤巻)						
2 障がい者(児)の歯科治療とその医療安全を理解し、保健・医療・福祉制度を説明できる(藤巻)						
3 障がい者の医療・福祉制度の仕組みがわかる(渡邊)						
4 地域医療連携の必要性が理解できる(渡邊)						
5 一次・二次・三次医療機関の役割と歯科衛生士の役割が理解できる(渡邊)						
計画・(内容)						担 当
1 代表的な障がいの特徴 (精神発達障がい・ダウン症候群)						藤 巻
2 " (自閉スペクトラム症/ADHD・LD)						〃
3 " (てんかん・脳性麻痺・重症心身障がい者)						〃
4 " (筋ジストロフィー/脊髄小脳変性症/ALS/うつ病/視聴覚障がい/各種行動調整法など)						〃
5 国家試験過去問題 (障がい者歯科問題の考え方)						〃
6 1章 障がいの概念(障がいの分類/障がい者の医療・福祉制度)						渡 邊
7 臨床における様々な障がい者に対する症例検討(歯科衛生士としてのかかわり)						藤 巻
8 7章 地域における障がい者歯科(地域医療連携の必要性/一次・二次・三次医療機関と歯科衛生士の役割)						渡 邊
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 あたし研究				評価方法 筆記試験(80点) 【藤巻】 筆記試験(20点) 【渡邊】 合計 100点		
留意事項 配布されたプリントは予習復習となるため、指示に従い使用・保管すること(渡邊)						

教科名	高齢者・有病者歯科	時 期	2年 前期	担当者	佐藤 雄治	実務・一般 歯科医師
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講 義		山岸 有子	実務・一般 歯科衛生士
概 要						
・ 高齢化社会を迎え、様々な疾患を有する患者の歯科治療を行う機会が増えてきている。本教科では、歯科治療時に注意を要する主な全身疾患について学習し、有病者の歯科治療を安全に行うための知識を学ぶ(佐藤) ・ 介護保険制度の概要、高齢者の生活機能の評価を学ぶ(山岸) ・ 高齢者に多い全身疾患と口腔疾患や口腔内の特徴を学ぶ(山岸) ・ 高齢者の薬剤服用に関する事項、高齢者に対する口腔ケアの方法を学ぶ(山岸) ・ 高齢者の栄養状態における評価を学ぶ(山岸)						
到 達 目 標						
1 歯科治療時に注意を要する各臓器や全身的な疾患の症状や病状、治療法がわかる。(佐藤) 2 全身疾患を有する患者の歯科治療時の注意点や起こりうる併発症の予防策がわかる。(佐藤) 3 有病者に対する鎮静法、静脈麻酔、全身麻酔などの行動管理法の有用性がわかる。(佐藤) 4 加齢に伴う心身機能・心理的な変化がわかる(山岸) 5 高齢者に多い口腔疾患や口腔内の特徴がわかる(山岸) 6 高齢者の生活機能の評価がわかる(山岸) 7 高齢者における口腔アセスメントがわかる(山岸) 8 高齢者における薬剤服用がわかる(山岸)						
計画・(内容)						担 当
1 高齢者社会と健康						山岸
2 口腔・咽頭領域の加齢変化						〃
3 精神・心理的变化						〃
4 高齢者に特有な口腔の疾患・症状						〃
5 高齢者に多いその他の口腔疾患						〃
6 高齢者の生活機能の評価						〃
7 高齢者の栄養状態						〃
8 口腔健康管理のための評価						〃
9 高齢者の薬剤服用						〃
10 全身疾患の基礎知識 (全身疾患の知識の必要性・口腔疾患との関わり)						佐 藤
各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点① (代謝・内分泌疾患、消化器疾患、循環器疾患、血液疾患)						
11 各評価のまとめ(例題問題)						山 岸
12 各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点② (呼吸器疾患、整形外科疾患、腎・泌尿器疾患)						佐 藤
13 各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点③ (免疫疾患・膠原病、感染症、神経・精神疾患、産科・婦人科疾患)						〃
14 各疾患の基礎知識と歯科治療における注意点④ (がん治療と口腔の関わり、鎮静法、静脈麻酔、全身麻酔の方法とその有用性)						〃
15 口腔機能低下や摂食嚥下障害の原因、症状、リハビリテーションについて						〃
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック 配布プリント				評価方法 ・ 筆記試験(50点) 【佐藤】 ・ 筆記試験(50点) 【山岸】 合 計 100点		
留意事項						

教科名	口腔保健管理Ⅱ	時 期	2年 前期・後期	担当者	永橋 茜 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	4(160)	形 態	講義・実技・演習				
概 要							
口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、根拠に基づいた専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。2年次は、歯肉縁下に対する歯面研磨・歯面清掃やキュレットスケーラーでのスケーリング、歯科衛生士過程を用いた歯科衛生介入、対象者のライフステージや全身状態など、歯周病のリスクファクターに対する個人指導の能力を身につける。							
到達目標							
1.キュレットスケーラーを適切に操作できる 2.歯科衛生過程を用いた歯科衛生介入を実施できる 3.歯肉縁下の歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 4.保健医療情報を収集できる 5.対象者に合わせた歯科衛生介入を実施できる							
計画・(内容)							担 当
前期							
1 病因論(う蝕・歯周病)							永橋
2 歯周組織の構造と機能(構成要素・機能)							永橋
3 概論(歯周病の原因・予防)							千葉
4 歯周病のリスクファクター(各因子)							千葉
5 患者情報収集①(歯周病エックス線撮影読影)							渡邊
6 患者情報収集②(BOP)							永橋
7 患者情報収集③(口腔内診査・BOP 相互実習)							永橋
8 患者情報収集③(口腔内診査・BOP 相互実習)							永橋
9 患者情報収集④(歯周病菌検査)							千葉
10 歯周治療に活かせるエビデンス①(歯周病とプラークの関係)							千葉
11 歯周治療に活かせるエビデンス②(歯間部清掃用具・歯磨剤・洗口剤の成分と効果)							千葉
12 超音波スケーラーを使用した歯周ポケット内イリゲーション操作(相互実習)							渡邊
13 超音波スケーラーを使用した歯周ポケット内イリゲーション操作(相互実習)							渡邊
14 キュレットスケーラー(特徴、使用目的、種類、使用法)							千葉
15 キュレットスケーラーを使用したスケーリング ①(上下顎前歯部 マネキン演習)							千葉
16 キュレットスケーラーを使用したスケーリング ②(下顎臼歯部 マネキン演習)							千葉
17 キュレットスケーラーを使用したスケーリング ③(上顎臼歯部 マネキン演習)							千葉
18 キュレットスケーラーを使用したスケーリング ④(全顎 マネキン演習)							千葉
19 患者情報収集⑤(口腔内診査略称)							渡邊
20 患者情報収集⑥(口腔内診査・PCR 相互実習)							永橋
21 患者情報収集⑥(口腔内診査・PCR 相互実習)							永橋
22 患者情報収集⑦(口腔内写真撮影・データー処理 相互実習)							千葉
23 患者情報収集⑦(口腔内写真撮影・データー処理 相互実習)							千葉
24 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク①(上下顎前歯 相互実習)							永橋
25 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク①(上下顎前歯 相互実習)							永橋
26 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク②(上下顎臼歯 相互実習)							永橋
27 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク②(上下顎臼歯 相互実習)							永橋
28 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク③(全顎 排唾管使用 相互実習)							渡邊
29 超音波スケーラーを使用した歯石除去アシスタントワーク③(全顎 排唾管使用 相互実習)							渡邊
30 キュレットスケーラーを使用したスケーリング ⑤(実技試験)							千葉
※ 演習授業については、科目担当教員(永橋・千葉・渡邊)が指導を行う。							
教本・参考図書				評価方法			
最新歯科衛生士教本	歯科予防処置論・歯科保健指導論			前期	実技試験(10点)		
最新歯科衛生士教本	歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学				筆記試験(90点)	合計100点	
最新歯科衛生士教本	歯周病学			後期	実技試験(10点)		
歯科衛生学シリーズ	高齢者歯科学				筆記試験(90点)		
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習に必要となるため、指示に従い使用・保管すること							
演習の際は、積極的に参加すること							
忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない							
実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること							
演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	口腔保健管理Ⅱ	時 期	2年 前期・後期	担当者	永橋 茜 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	4(160)	形 態	講義・実技・演習				
概 要 口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、根拠に基づいた専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。2年次は、歯肉縁下に対する歯面研磨・歯面清掃やキュレットスケーラーでのスケーリング、歯科衛生士過程を用いた歯科衛生介入、対象者のライフステージや全身状態など、歯周病のリスクファクターに対する個人指導の能力を身につける。							
到達目標 1.キュレットスケーラーを適切に操作できる 2.歯科衛生過程を用いた歯科衛生介入を実施できる 3.歯肉縁下の歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 4.保健医療情報を収集できる 5.対象者に合わせた歯科衛生介入を実施できる							
計画・(内容)							担 当
31 カルテの読み方と基礎知識①(病名と略称)							渡邊
32 カルテの読み方と基礎知識②(病名と治療内容)							渡邊
33 症例別検討(歯肉炎・歯周炎)							千葉
34 口腔清掃方法(演習)							永橋
35 キュレットスケーラーのシャープニング(原則および目的、方法、演習)							渡邊
36 キュレットスケーラーのシャープニング(原則および目的、方法、演習)							渡邊
37 生活習慣の指導(非感染性疾患とストレスマネジメント)							永橋
38 歯周治療におけるリスクファクター①(喫煙)							渡邊
39 リーフレットを使用した患者指導①(喫煙)							渡邊
40 キュレットスケーラーを使用したスケーリング⑤(上下前歯部 相互実習)							千葉
41 キュレットスケーラーを使用したスケーリング⑤(上下前歯部 相互実習)							千葉
42 歯周治療におけるリスクファクター②(妊娠婦)							千葉
43 リーフレットを使用した患者指導②(妊娠婦)							千葉
44 リーフレットを使用した患者指導③(喫煙、妊娠婦 相互演習)							渡邊
45 キュレットスケーラーを使用したスケーリング⑥(上下臼歯部 相互実習)							永橋
46 キュレットスケーラーを使用したスケーリング⑥(上下臼歯部 相互実習)							永橋
47 歯周治療におけるリスクファクター③(高齢者の口腔内の特徴)							千葉
48 リーフレットを使用した患者指導④(高齢者の口腔内、老化に伴う口腔変化)							千葉
49 基本的なアシスタントワーク(患者誘導・口腔内診査の記入・歯周組織検査・パキューム・ライティング 相互実習)							渡邊
50 基本的なアシスタントワーク(患者誘導・口腔内診査の記入・歯周組織検査・パキューム・ライティング 相互実習)							渡邊
51 歯周治療におけるリスクファクター④(糖尿病・高血圧・骨粗鬆症)							永橋
52 リーフレットを使用した患者指導⑤(糖尿病・高血圧・骨粗鬆症)							永橋
53 リーフレットを使用した患者指導⑥(高齢者・糖尿病・高血圧・骨粗鬆症 相互演習)							千葉
54 患者設定演習①(患者誘導・口腔内診査の記入・歯周組織検査・保健指導 相互実習)							渡邊
55 患者設定演習①(患者誘導・口腔内診査の記入・歯周組織検査・保健指導 相互実習)							渡邊
56 PMTC(目的、使用器材と操作方法 マネキン演習)							永橋
57 PMTC(目的、使用器材と操作方法 マネキン演習)							永橋
58 歯面清掃器(特徴、使用上の注意事項 マネキン演習)							千葉
59 歯面清掃器(特徴、使用上の注意事項 マネキン演習)							千葉
60 地域歯科保健指導活動における健康教育(概要・進め方)							永橋
※ 演習授業については、科目担当教員(永橋・千葉・渡邊)が指導を行う。							
教本・参考図書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 最新歯科衛生士教本 歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 最新歯科衛生士教本 歯周病学 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学				評価方法 前期 実技試験(10点) 筆記試験(90点) 合計100点 後期 実技試験(10点) 筆記試験(90点)			
留意事項 配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習に必要となるため、指示に従い使用・保管すること 演習の際は、積極的に参加すること 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	口腔保健管理Ⅱ	時 期	2年 前期・後期	担当者	永橋 茜 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	4(160)	形 態	講義・実技・演習				
概 要							
口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病の原因について理解し、生涯を通じて、人々が健康を維持・増進するための予防法、技術を学ぶ。また、根拠に基づいた専門的支援、援助を行うことのできる指導法を身につけた「考える歯科衛生士」の育成を目指す。2年次は、歯肉縁下に対する歯面研磨・歯面清掃やキュレットスケーラーでのスケーリング、歯科衛生士過程を用いた歯科衛生介入、対象者のライフステージや全身状態など、歯周病のリスクファクターに対する個人指導の能力を身につける。							
到達目標							
1.キュレットスケーラーを適切に操作できる 2.歯科衛生過程を用いた歯科衛生介入を実施できる 3.歯肉縁下の歯面研磨・歯面清掃を適切に実施できる 4.保健医療情報を収集できる 5.対象者に合わせた歯科衛生介入を実施できる							
計画・(内容)							担 当
61 地域歯科保健指導活動のフィールド①(保育園、幼稚園、小・中・高等学校) 62 患者設定演習②(1人術者での超音波スケーラーを使用したスケーリング 相互実習) 63 患者設定演習②(1人術者での超音波スケーラーを使用したスケーリング 相互実習) 後期 64 老年期における集団指導①(健口教室概要) 65 老年期における集団指導②(健口教室準備) 66 老年期における集団指導③(健口教室準備) 67 老年期における集団指導④(健口教室準備) 68 老年期における集団指導⑤(健口教室リハーサル) 69 老年期における集団指導⑥(健口教室実施-1) 70 老年期における集団指導⑦(健口教室実施-2) 71 ライフステージ 要介護高齢者(一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導) 72 口腔の機能的問題の把握(観察による評価:口腔機能・嚥下機能) 73 口腔機能管理に関わる指導(口腔機能の発達・低下) 74 高齢者・要介護高齢者の口腔ケア(目的、方法、ケアを行う際の留意点) 75 高齢者・要介護高齢者の口腔ケア①(症例①アセスメント、計画立案) 76 高齢者・要介護高齢者の口腔ケア②(症例②アセスメント、計画立案) 77 高齢者・要介護高齢者の口腔ケア③(口腔ケア マネキン演習) 78 高齢者・要介護高齢者の口腔ケア④(口腔ケア 相互実習) 79 高齢者・要介護高齢者の口腔ケア④(口腔ケア 相互実習) 80 地域歯科保健指導活動のフィールド②(事業所、保健所、市町村保健センター、地域、病院、施設)							永橋 千葉 千葉 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 永橋 渡邊 渡邊 永橋 永橋 千葉 千葉 千葉 永橋
※ 演習授業については、科目担当教員(永橋・千葉・渡邊)が指導を行う。							
教本・参考図書				評価方法			
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 最新歯科衛生士教本 歯・口の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 最新歯科衛生士教本 歯周病学 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学				前期 実技試験(10点) 筆記試験(90点) 合計100点 後期 実技試験(10点) 筆記試験(90点)			
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習に必要となるため、指示に従い使用・保管すること 演習の際は、積極的に参加すること 忘れ物(白衣・器具・器材)があった場合は、演習には参加できない 実技に関しては各自で自己練習をし、適切な操作ができるよう鍛錬すること 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	摂食嚥下	時 期	2年 後期	担当者	伊藤 正明	実務・一般	歯科医師
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義 ・ 演習		三浦 伸子	実務・一般	歯科衛生士
概 要							
・摂食嚥下機能についてのメカニズム、機能障害、リハビリテーションについての理解を深める。							
到達目標							
1 摂食嚥下の基礎について学び、理解できる							
2 摂食嚥下障害について、各ライフステージについて説明できる							
3 摂食嚥下障害の診査・診断を理解する							
4 摂食嚥下リハビリテーションの方法と歯科衛生士の役割について学び、理解できる							
計画・(内容)							担 当
1 摂食嚥下リハビリテーション総論							伊 藤
2 摂食嚥下機能のメカニズム							〃
3 摂食嚥下障害の病態							〃
4 摂食嚥下障害の診査・診断							〃
5 摂食嚥下訓練							〃
6 病院歯科における歯科衛生士の役割							〃
7 嚥下困難者への食事指導(食物、とろみについて)							三浦
8 〃 (演習)							〃
教本・参考図書				評価方法			
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版				筆記試験 100点 【伊藤】			
留意事項							

教科名	口腔リハビリテーション	時 期	2年後期	担当者	野村 昌邦	実務・一般 言語聴覚士
単位(時間数)	1 (20)	形 態	講義・演習		三浦 伸子	実務・一般 歯科衛生士
概 要						
- 摂食嚥下障害についての基礎知識を学ぶ。また、歯科衛生士が必要とする摂食嚥下リハビリテーションの評価や訓練法を理解し知識や技術を学ぶ。(野村) - 摂食リハビリテーションにおける歯科衛生士としての専門性を高めるための知識・技術・態度を学ぶ。(三浦) - 多職種と協働して口腔ケアを行う上での歯科衛生士としての果たすべき役割を考える。(三浦)						
到達目標						
1 摂食嚥下障害がわかる(野村) 2 摂食嚥下障害に関わる機能がわかる(野村) 3 摂食嚥下運動の各ステージの役割が分かる(野村) 4 摂食嚥下機能に関わるスクリーニング検査を説明できる(野村) 5 摂食嚥下障害に対応した訓練内容を理解し実施できる(野村) 6 摂食嚥下障害のケースをみて障害を理解できる(野村) 7 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセスの概念がわかり計画立案ができる (三浦) 8 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士としての専門的口腔ケア計画に基づき介入ができる(三浦) 9 摂食嚥下リハビリテーションにおける栄養管理がわかる(三浦) 10 口腔機能低下症がわかる (三浦)						
計画・(内容)						担 当
1 摂食嚥下に関わる器官について(障害と原因)						野 村
2 摂食嚥下運動の各ステージについて(嚥下モデルを理解する)						〃
3 摂食嚥下リハビリテーション①(摂食嚥下障害の観察と評価)						〃
4 摂食嚥下リハビリテーション②(訓練法・実技指導)						〃
5 摂食嚥下リハビリテーション③(症例紹介)						〃
6 摂食嚥下リハビリテーションにおける連携(リハビリテーションとチームアプローチについて)						〃
7 栄養管理						三 浦
8 口腔機能低下症						〃
9 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生課程(歯科衛生士ケアプロセスに基づいた摂食嚥下リハビリテーションの考え方)						〃
歯科衛生士が行う口腔ケア(アセスメント、計画立案) 演習						
10 歯科衛生士が行う口腔ケア(介入) 演習						〃
教本・参考図書				評価方法		
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版				筆記試験60点 【野村】		
				筆記試験40点 【三浦】		
				合計 100点		
留意事項						
授業は指定した教科書と配布プリントで行います(野村)						
2～5回は前回授業の確認問題を行います(野村)						
実技を行う場合は積極的に参加すること(野村)						
グループワーク及び発表には積極的に参加すること (三浦)						
忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習に参加できません。(三浦)						
時間割と順番が異なる場合があります。						

教科名	診療補助Ⅱ	時 期	2年 前期・後期	担当者	奥ひろみ 渡邊恵里 三浦伸子 水口 香	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	2 (80)	形 態	講義 ・ 演習			
概 要						
様々な、ライフステージにおける診療内容に対する介助や直接行為の基礎的な知識と技術を習得することで診療行為の集約をはかり診療の効率化に大きく寄与することができる能力と、実践力を養う。 2年生では、各専門分野での様々な歯科治療の流れを理解した上でのアシスタントワーク、対面行為を学ぶ。 診療の円滑化・効率化に寄与する為の知識・技術・態度を習得し、臨床実習に対応できる能力を養う。 全身疾患を持つ患者に対応する知識を学ぶ。						
到達目標						
・口腔外科の器具・器材の説明、取り扱いができる。 ・診療の流れに応じた準備ができる。 ・各種材料の取り扱いができる。 ・シリコンラバー印象の手順の説明、使用器材の準備ができる。 ・補綴の診療補助のそれぞれ流れの説明、使用器材の準備ができる。 ・保存修復の診療補助の手順の説明と準備ができる。 ・全身疾患を持つ患者に対応する知識を身につける。 ・小児の治療に必要な器具・器材の取り扱いと対応ができる。 ・障がい者歯科の抑制的対応と行動療法がわかる。 ・義歯の取り扱いと作成の流れがわかる。						
計画・(内容)						担 当
前期						
1 アルジネート印象採得 相互実習						三浦
2 アルジネート印象採得 相互実習						〃
3 補綴の診療補助 (個人トレーでのラバー印象、筋形成講義)						奥
4 補綴の診療補助 (個人トレー作製、筋形成演習)						〃
5 補綴の診療補助 (個人トレーでのラバー印象演習)						〃
6 合同授業 (口腔内観察・アセスメント、口腔ケア)						三浦・水口
7 合同授業 (口腔内観察・アセスメント、口腔ケア)						〃
8 口腔外科の診療補助 (麻酔の種類、縫合・使用器材講義)						奥
9 口腔外科の診療補助 (縫合演習)						〃
10 口腔外科の診療補助 (麻酔演習)						〃
11 口腔外科の診療補助 (抜歯準備・使用器材)						奥
12 口腔外科の診療補助 (抜歯準備・使用器材)						〃
13 口腔外科の診療補助 (小手術の使用器材)						奥
14 口腔外科の診療補助 (小手術の使用器材)						〃
15 歯周治療の診療補助 (歯周外科の術式、流れと使用器材)						奥
16 歯周治療の診療補助 (歯周外科の術式、流れと使用器材)						〃
17 受け渡し演習 (コンポジットレジン充填の術式)						渡邊
18 受け渡し演習 (仮封材取り扱い)						〃
19 実技試験① (外科器具)						渡邊
20 補綴の診療補助 (各種バー・ポイント)						三浦
21 矯正歯科の診療補助 (矯正用器材と取り扱い)						奥
22 矯正歯科の診療補助 (矯正用器材と取り扱い)						〃
23 矯正歯科の診療補助 (矯正用器材と取り扱い、患者指導)						奥
24 矯正歯科の診療補助 (ダイレクトボンディング法実習)						奥
25 矯正歯科の診療補助 (結紮法実習)						〃
26 補綴の診療補助 (義歯作成の流れ 全額・片顎)						三浦
27 補綴の診療補助 (義歯調整・リベース・リライン)						〃
28 障がい者歯科・小児歯科の診療補助 (抑制的対応と行動療法)						渡邊
29 障がい者歯科・小児歯科の診療補助 (抑制的対応と行動療法)						〃
30 補綴の診療補助 (暫間被覆冠作製①)						渡邊
31 補綴の診療補助 (暫間被覆冠作製②)						〃
後期						
32 全身疾患をもつ患者と歯科診療補助① (口腔内の特徴と注意点)						水口
33 全身疾患をもつ患者と歯科診療補助② (口腔内の特徴と注意点)						〃
34 全身疾患をもつ患者と歯科診療補助③ (口腔内の特徴と注意点)						〃
35 歯科医療における診療補助 (特別な配慮が必要な患者対応)						渡邊
36 高齢者の口腔内観察・アセスメント						水口
37 高齢者の口腔内観察・アセスメント						〃
38 高齢者の口腔内観察・アセスメント演習						〃
39 補綴の診療補助 (暫間被覆冠作製③)						渡邊
40 補綴の診療補助 (暫間被覆冠作製④)						〃
教本・参考図書					評価方法	
最新歯科衛生教本 歯科診療補助第2版 最新歯科衛生教本 歯科材料					【前期】筆記試験 80点	
最新歯科衛生教本 歯科器械 最新歯科衛生教本 歯科補綴第2版(※)					実技試験 20点	
最新歯科衛生教本 矯正歯科(※) 最新歯科衛生教本 口腔外科・歯科麻酔(※)					【後期】筆記試験 100点	
留意事項						
グループワーク及び発表には積極的に参加すること 授業時間内に確認問題を行う場合あり 忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習に参加できません。 実習室で実習の場合は、演習前には始業点検を終了しておくこと 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること 教本 (※)矯正歯科、口腔外科・歯科麻酔、歯科補綴、小児歯科、障がい者歯科 授業の際に使用 (その他指示された教本を準備すること)						

教科名	看護学	時 期	2年 前期	担当者	綱森 楓	実務・一般 看護師
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義 ・ 演習		富樫 信	実務・一般 臨床検査技師
概 要 ・看護学を通し、チーム医療の機能と専門職の役割を学ぶ。(綱森) ・対象の全身状態を把握し、迅速かつ安全な対応ができる。(綱森) ・歯科診療にあたり、患者の全身状態を把握することが重要である。患者の全身状態は臨床検査結果に反映されることから臨床検査に関し正しく理解することが重要であり、講義を通じて習得する。(富樫)						
到達目標 1 バイタルサインや一般状態を観察し、異常時の対応を理解できる (綱森) 2 疾患により全身状態に及ぼす影響が理解できる (綱森) 3 発達段階に合った対象への関わり方を理解できる (綱森) 4 チーム医療の目的が理解できる (綱森) 5 臨床検査は大別して心機能検査や超音波検査等の直接患者の身体を検査する生理機能検査と患者から採取した検査材料を用いて行う検体検査がある。歯科診療を受ける患者の健康状態を把握に必要な検査の種類や臨床的意義等を学び、得られた検査結果を正しく評価し、診療に貢献できるよう知識を習得する。(富樫)						
計画・(内容)						担 当
1 看護とは (看護の歴史・看護師の役割について) 病院の機能 (病院の種類や機構について) 2 全身疾患のある対象との関わり (虚血性心疾患・高血圧・糖尿病) 3 コミュニケーション (目的と方法・発達段階別の接し方) 4 バイタルサイン (定義・意識レベル・救急時の特徴) 5 演習 (血圧・脈拍・呼吸・体温) 6 与薬・感染対策・医療安全 (与薬方法 感染予防 患者の安全・安楽) 7 地域医療における看護 (在宅医療・高齢者を支える制度と社会資源) 8 臨床検査の世界 (パワーポイントで作成した資料を用いて検査を行っている現場を紹介、検査実施から報告まで) 9 臨床検査とは (誰がどのように検査を行っているのか、種々の生理機能検査や検体検査の概要を説明) 10 生体検査 (脈波、血圧、心機能、肺機能、超音波など) 11 血液検査 (血液一般検査、凝固検査、線溶系検査など) 12 生化学検査 (肝機能、腎機能、糖代謝、免疫・血清検査など) 13 血液型・感染症検査 (ABO式・Rh式血液型、HBV, HCV等の感染症検査など) 14 病理検査 (病理組織検査、細胞診検査、病理解剖など) 15 主な疾患・病態別検査値のとりえ方～こんな患者が来院したら～ どちらかで演習(車いす移乗・移送) <td>綱 森 <</td>						綱 森 <

教科名	介護概論	時期	2年 後期	担当者	藤澤 千栄子	実務・一般 介護福祉士
単位(時間数)	1 (15)	形態	講義 ・ 演習		東 清美	実務・一般 主任ケアマネジャー
					前多 真紀子	実務・一般 歯科衛生士
概要 ・ 介護の対象の理解とニーズ、介護者のあり方について学ぶ。(藤澤) ・ 地域で高齢者を支えるために必要な保健・医療・介護について基本的な知識を得る。(東) ・ 通所介護施設での事例を基に、口腔機能評価と訓練の方法を学ぶ。(前多)						
到達目標 1 利用者の日常生活の理解、価値観の尊重を理解する(藤澤) 2 介護保険制度を理解し、高齢者の自立支援に向けたサポートについて理解する(東) 3 口腔機能訓練をするためのコミュニケーションのとり方を身につける(前多)						
計画・(内容)						担当
1 利用者との信頼関係の築き方 (コミュニケーションの必要性、ニーズの把握、日常生活の理解) 2 演習 (グループワークによる問題点の取りまとめ発表) 3 介護の概念・対象者理解 4 介護保険制度の概要① (介護保険制度の目的・仕組みについて・利用の流れ) 5 介護保険制度の概要② (") 6 介護保険制度の概要③ (演習・介護予防プランの作成(グループワーク)) 7 認知症高齢者を支える地域づくりについて学ぶ 8 通所介護における歯科衛生士の役割 (他職種との連携、高齢者の口腔機能向上の支援)						藤 澤 " 東 " " " " 前 多
教本・参考図書 介護概論・基礎介護技術 共栄出版株式会社 レジュメ				評価方法 筆記試験 (20点) 【藤澤】 筆記試験 (70点) 【東】 筆記試験 (10点) 【前多】 合計 100点		
留意事項 グループワークには積極的に取り組むこと (藤澤)						

教科名	介護技術	時期	2年 後期	担当者	大野 しのぶ	実務・一般 介護福祉士
単位(時間数)	1 (40)	形態	講義 ・ 演習		藤澤 千栄子	実務・一般 介護福祉士
					三浦 伸子	実務・一般 歯科衛生士
概要 ・レクリエーションの考案・準備から実践までの流れを体験することで要介護者の気持ちを学び、より良いコミュニケーションの方法を考え、学ぶ。(大野) ・安全で安楽、自立に向けたコミュニケーション方法を学ぶ(藤澤) ・突然のけがや病気に対応できる応急手当について、また質の高い救命処置を実施できるための知識、技術、態度を学ぶ(三浦)						
到達目標 1 レクリエーションを体験・実践する事で、より良い挨拶や声かけが出来る(大野) 2 要介護者の気持ちを考えながらコミュニケーションをとることが出来る(大野) 3 利用者との信頼関係の必要性和コミュニケーション方法を学ぶ(藤澤) 4 迅速かつ正確に、有効な心肺蘇生を行うことができる(三浦) 5 安全にAEDを使用できる(三浦)						
計画・(内容)						担当
1 挨拶・声かけの方法を学ぶ (声の出し方や聞こえ方を体験する為、自己紹介や声かけの実践)						大 野
" (認知症の方とのコミュニケーションを考える)						"
2 レクリエーション体験 (実際のレクリエーションを体験する)						"
レクリエーションの考案 (グループワークにて障害のある方へのレクリエーションを企画する)						"
3 レクリエーション準備・実践 (グループごとに発表・実践)						"
4 " "						"
5 接遇の基本 (介護接遇のポイント)						藤 澤
6 ベッドメイク (清潔で寝心地よく、見た目にも美しいベッド(コーナー)作り)						"
7 " (臥床している状態での安全なシーツ交換(転落防止、コミュニケーション)) 小テスト						"
8 体位、姿勢変換の介助 (体を楽にし、変形を防げる移動、体位変換)						"
9 " (事前に声かけし、介助の内容を説明し同意を得ることで利用者の不安解消) 小テスト						"
10 食事の介護 (安全な摂取姿勢、角度、マヒ、表情の確認)						"
11 " (出来るだけ自分で食べられるように援助、安全に食事を摂って頂く)						"
12 車イス移乗介助 (車イスの取扱い、各部名称説明、ベッドから車イスへ移乗)						"
13 " (段差昇降、手足の巻き込み、声かけ、移動時のスピード)						"
14 " (車イスからユニットへの移乗介助、声かけ、コミュニケーション) 小テスト						"
15 衣服の着脱 (患側、健側の確認、声かけによる安全な介助) 小テスト						"
16 排泄・尿失禁の介助 (オムツの説明)						"
17 視覚障害及び肢体不自由者の介護①						"
(体験装具を着用しての歩行介助、視覚の変化、聴覚変化の確認介助者の位置、声かけ、コミュニケーション)						"
18 視覚障害及び肢体不自由者の介護②						"
(体験装具を着用しての歩行介助、視覚の変化、聴覚変化の確認介助者の位置、声かけ、コミュニケーション)						"
19 応急手当の基礎知識、救急処置、ファーストエイド (目的と必要性)						三 浦
20 救命処置 (心配蘇生とAED使用について)						"
教本・参考図書 共栄出版株式会社 介護概論・基礎介護技術				評価方法 小テスト(4項目+接遇の基本)を合計して評価する 4×10点+10点 = 50点 【藤澤】 筆記試験 50点 【三浦】 合計 100点		
留意事項 ・グループワークでは授業内容と無関係の話は慎む事 (大野) ・授業内な私語を慎み、内容を理解するために意欲的に取り組むこと (藤澤) ・180分受講、効果測定80%以上で普通救命講習修了証を授与する (三浦)						

教科名	臨地・臨床実習	時 期	2年	担当者	実習指導者 (登録者)	実務	歯科医師 歯科衛生士
単位(時間数)	8 (360)	形 態	実 習				
概 要							
学校内で習得した知識や技術を、臨床の場において実践できる能力を養う。特に歯科衛生士の三大業務である『歯科予防処置』『歯科保健指導』『歯科診療補助』の理解を深める 歯科医療の実際を学び、専門職として自覚を持ち、意欲的に行動する							
到達目標							
(1) 診療の流れを把握し症例に応じた診療補助・介助ができる (2) 歯周病・う蝕予防におけるプロフェッショナルケアを習得する (3) 保健指導の場面において指導内容を分析し、問題解決の方法を予測する (4) 臨床の場における対人場面を学び、コミュニケーションスキルやホスピタリティマナーを身に付ける (5) 臨機応変さを身につけ、先を読んだ行動ができる							
計画・(内容)							
臨地・臨床実習 函館市内、近郊の歯科診療所での実習 							

教科名	学級コミュニケーション	時 期	2年前後期	担当者	渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	1 (40)	形 態	講義・演習		専任教員		
概 要							
エンカウンター、QU、一般教養などを通じて豊かな人間性と社会性を育む 定期試験、オスキー合格に向けての方策を立て、クラス一丸となり協力し学ぶ 1,3年生との交流を図り、親睦を深めるために中心となり学校行事等の内容を企画・準備する							
到達目標							
コミュニケーションスキル、ホスピタリティマナーを身につける 定期試験、オスキー合格に向けた学習方法が分かる 中心学年として行事等でリーダーシップを発揮できる 円滑な人間関係を構築するために他者を理解できる							
計画・(内容)							
1 クラス目標(KJ法)、個人目標設定(1年次の反省に基づき設定する)							
2 春のレクリエーションについて(内容、グループ分け)・歯科衛生士会について							
3 オスキー・臨床実習について(心構え等)							
4 人間関係・SNSについて(DVD鑑賞にて医療人としての自覚を持つ)							
5 エンカウンターにて自己研鑽について学ぶ ・QU1回目							
6 1・2年生合同スポーツレクリエーションについて(内容、グループ分け)							
7 スポーツレクリエーションについて(進捗状況確認、作業)							
8 スポーツレクリエーションについて(進捗状況確認、作業)							
9 スポーツレクリエーション反省・QU2回目							
10 学習計画(定期試験準備、学習ファイル記入)							
11 状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)							
12 オスキー・臨床実習について							
13 学習計画(定期試験準備、学習ファイル記入)							
14 オスキー反省・臨床実習に向けて							
15 決意式・激励会準備							
16 研修旅行について(スケジュール、グループ分け)							
17 研修旅行について(スケジュール、グループ分け)							
18 歓送会について(企画等)							
19 歓送会について(準備等)							
20 状況に応じたSL(その時期に一番必要と思われる内容を実施する)							
※内容により担当・順序が変わることがあります							
教本・参考図書				評価方法			
				定期試験 なし 単位修得のための出席確認			
留意事項							
グループワーク及び発表には積極的に参加すること。 行事では積極的に行動し、楽しむこと。また、全員が楽しめるよう周囲の状況をよく観察し工夫すること。 学校行事の準備はクラス全員で協力し合うこと。 最低、月に一度は5Sを実施し清潔に心がけること。 20回のうち数回はゼミ方式で行う							

教科名	課題研究	時 期	2年 後期	担当者	奥 ひろみ	実務・一般 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義		専任教員	実務・一般 歯科衛生士
概 要						
歯科衛生の実践に根ざした学術研究は、歯科衛生業務を確立し、発展させるために欠かせないことである。歯科衛生研究の目的である、歯科衛生業務に関する疑問・課題について研究し、知識や理論を導き出すことについて、その方法や手順、留意点を理解したうえで研究成果の発表までをグループとして取り組むことにする。 なお、授業は2年後期～3年後期まで継続して学び、準備、研究、まとめ、発表と進めていく。						
到達目標						
1. 歯科衛生業務における研究の重要性がわかる。 2. 研究の種類と方法、留意点について説明できる 3. 研究の進め方について概説できる 4. 研究テーマを設定できる 5. 研究計画書を作成できる						
計画・(内容)						
1. ガイダンス 授業の概要と評価について。 研究とは何か・歯科衛生業務における研究の意義 2. 研究方法の種類について（調査研究、実験研究、文献研究、症例研究の4種について学ぶ） 3. 歯科衛生士が行う主な研究方法（疫学における研究法7種と、歯科衛生士による研究論文を紹介する） 4. 文献検索の方法について（文献の質について学ぶ）PC演習 5. 文献検索の方法について（インターネット、図書館から文献を集める方法）PC演習 6. 研究方法別の論文を読み違いを理解する（研究の進め方、まとめなどについて） 7. 研究メンバーになってテーマを考える（グループ内プレゼン） 8. 研究メンバーになってテーマを考える（担当教員とともに） 9. 課題研究(グループ)のプロセスについて（研究計画書を提出するまで） 10. 文献検索・資料の収集（先行研究や関連資料を探す） 11. 文献検索・資料の収集（先行研究や関連資料を探す） 12. 研究テーマの決定・研究計画書の作成（グループによる課題研究の計画書を作成する） 13. 研究計画書の作成（グループによる課題研究の計画書を作成する） 14. 研究計画書の作成（グループによる課題研究の計画書を作成する） 15. 研究計画書の作成（グループによる課題研究の計画書を作成する）						
教本・参考図書				評価方法		
看護研究論文の書き方（照林社） 歯科医療倫理（医歯薬出版）				研究計画書(第15回終了時に提出)の採点 (優・良・可・不可)		
留意事項						
グループディスカッションの際には、積極的に参加すること グループ内では必ず協議にて決定し、多数決を禁ずる						

3年生

.....

教 育 課 程

分野	教育内容	学科目	単位数	時間数	1年	2年	3年
基礎	科学的思考の基礎	生物	2	30	30		
		情報処理	2	30	30		
		衛生統計	1	15		15	
	人間と社会の理解	英語コミュニケーション	1	20	20		
		心理学Ⅰ	1	20	20		
		心理学Ⅱ	1	20		20	
		国語表現	2	30	30		
	小計		10	165	130	35	
専門基礎	人体(歯と口腔を除く)の構造と機能	解剖・生理	3	45	45		
		生化学	1	15	15		
	歯・口腔の構造と機能	口腔組織	1	15	15		
		口腔生化学	1	15	15		
		口腔解剖	2	30	30		
		歯牙解剖	1	15	15		
		口腔生理	1	15	15		
		疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	2	30	30	
	薬理学		2	30		30	
	微生物学		2	30	30		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	保健生態学Ⅰ	2	30	30		
		保健生態学Ⅱ	3	45		15	30
		衛生行政	1	15			15
		社会福祉	1	15			15
小計		23	345	240	45	60	
専門	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論	1	15	15		
		歯科医療倫理	1	15		15	
	臨床歯科医学	保存修復	1	20	20		
		歯内療法	1	20	20		
		歯周疾患	1	30	30		
		放射線	1	30		30	
		歯科補綴	1	30		30	
		矯正歯科	1	30		30	
		小児歯科	1	20		20	
		口腔外科	2	40		40	
		障がい者歯科	1	15		15	
		高齢者・有病者歯科	1	30		30	
	歯科予防処置論	口腔保健管理Ⅰ	5	200	200		
		口腔保健管理Ⅱ	4	160		160	
	歯科保健指導論	口腔保健管理Ⅲ	2	80			80
		栄養指導	1	30			30
		摂食嚥下	1	15		15	
		口腔リハビリテーション	1	20		20	
		地域包括ケア	1	15			15
	歯科診療補助論	診療補助Ⅰ	3	120	120		
		診療補助Ⅱ	2	80		80	
診療補助Ⅲ		1	40			40	
看護学		1	30		30		
介護概論		1	15		15		
介護技術		1	40		40		
臨地・臨床実習	臨地・臨床実習	20	900	90	360	450	
小計		57	2040	495	930	615	
選択必修	選択・必修分野	接遇・マナー	1	15	15		
		体育	1	40	40		
		歯科医療事務	2	40			40
		学級コミュニケーション	4	160	80	40	40
		課題研究	2	60		30	30
		総合講義	4	120			120
	小計		14	435	135	70	230
合計		104	2985	1000	1080	905	

※ 1単位・・・講義 15～30時間

実技・演習 40時間

実習 45時間

授 業 進 度 表

		3年前期				
科目	頁	4月	5月	6月	7月	8月
保 健 生 態 学 II	66					
衛 生 行 政	67					
社 会 福 祉	68					
口 腔 保 健 管 理 III	69-70	●—●				
栄 養 指 導	71					
地 域 包 括 ケ ア	72					
診 療 補 助 III	73	●—●		●—●		
臨 地 ・ 臨 床 実 習	74		●	—————	●	
歯 科 医 療 事 務	75	●—●				
学級コミュニケーション	76	●—●				
課 題 研 究	77	●—●				
総 合 講 義	78					

3年後期						
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●—————●						
●—————●						
●—————●						
●—————●						
●—————●						
●—————●						
●————●						
●—————●						
●—————●						
●—————●						

教科名	保健生態学Ⅱ	時期	3年 後期	担当者	田村 堅吾	(実務)	一般	医 師
					岩井 祐司	(実務)	一般	歯科医師
					奥 ひろみ	(実務)	一般	歯科衛生士
					三浦 伸子	(実務)	一般	歯科衛生士
単位(時間数)	2 (30)	形態	講義					
概要 保健生態学は、衛生学・公衆衛生学および口腔衛生学を一連のものとして捕らえた学問です。その内容は3編に分割して、Ⅰ編『健康を左右する環境』、Ⅱ編『歯・口腔の健康と予防』、Ⅲ編『健康に関わる地域の役割』となっております。この授業では、『Ⅲ編 健康に関わる地域の役割』を中心に学びます。公衆衛生学と公衆歯科衛生学を1つにして『地域保健学』とし、集団を対象とした疾病予防と健康増進について行政の面からとらせ、地域の保健活動について学ぶ。 なお、『Ⅰ編 健康を左右する環境』から、5章感染症と、6章食品と健康についても併せて学びます。								
到達目標								
1 地域保健の組織および基本的な進め方を理解できる。(奥) 2 母子保健の目的および概要、そしてこれに関わる歯科衛生士として必要な知識を習得する。(奥) 3 感染症の概念と感染成立の三要因について説明できる(田村) 4 感染予防、流行防止の対策および感染症対策の体系と内容がわかる(田村) 5 食中毒の分類と特徴を説明できる(田村) 6 産業衛生に関する法規がわかる(田村) 7 職業性疾病を起こす要因がわかる(田村) 6 産業衛生に関する法規がわかる(田村) 7 職業性疾病を起こす要因がわかる(田村) 8 精神保健の定義、意義を説明できる(岩井) 9 精神保健活動の現状と歯科保健の問題点を説明できる(岩井) 10 国により、保健の発達程度が異なるため、国々の協力が必要なことを理解できる(岩井) 11 WHOやJICAの活動を理解できる(岩井) 12 学校保健の保健教育、保健管理を説明できる(三浦) 13 生活習慣病のリスクファクターを列挙できる(三浦) 14 高齢者の保健対策に係る保険制度と法律を説明できる(三浦)								
計画・内容								担 当
《Ⅲ編 健康に関わる地域の役割》 1章 地域保健・公衆衛生 1. 地域保健を担う組織の仕組みと特徴について学ぶ 2. ヘルスプロモーションやノーマライゼーションなどの地域保健の概念を学ぶ。 地域保健活動の基本的な進め方と具体的アプローチについて学ぶ。 3. 地域歯科保健に関係する保健福祉関係の施策と法律について学ぶ。 2章 母子保健 4. 母子保健の概略と、『健やか親子21』について学ぶ。 1歳6か月児・3歳児健康診査について学び、罹患型の分類を理解する 3章 学校保健 5. 学校保健の意義と概要、学校保健の活動と組織、学校保健の3領域について① 6. 学校保健の意義と概要、学校保健の活動と組織、学校保健の4領域について② 4章 成人保健 7. 成人保健活動の現状と対策について学ぶ 5章 産業保健 8. 産業衛生に関する法規、職業性疾患、産業保健管理、産業保健活動について 6章 老人(高齢者)保健 9. 老人(高齢者)のための行政組織と法律について学ぶ 7章 精神保健 10. 精神保健の意義、医療、精神障がい者の歯科保健 9章 国際保健 11. 国際協力と口腔保健戦略 《Ⅰ編 健康を左右する環境》 5章 感染症 12. 感染症発症の要因について 13. 感染症の予防について 14. 感染症対策、特に感染症法及びその他の法規について 6章 食品と健康 15. ①食中毒 ②食品の安全性 ③国民の栄養とその問題(栄養素、生活習慣病とメタボリック) ④食育								奥 〃 〃 〃 〃 三浦 〃 〃 田村 三浦 岩井 〃 田村 〃 〃 〃 〃
教本・参考図書				評価方法				
最新歯科衛生士教本				筆記試験	30点 【 奥 】	20点 【 三浦 】		
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ1 保健生態学2版					30点 【 田村 】			
					20点 【 岩井 】	合計 100点		
留意事項								
授業はオムニバス形式につき、上記計画(内容)は授業の順とは異なります。 授業の進行は、時間割にて確認してください。								

教科名	衛 生 行 政	時 期	3年 後期	担当者	永盛 恒男	実務・ 一般
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要 ・ 法学の基本概念、衛生行政の仕組、いわゆる歯科三法を中心に、その衛生関連の法律を学ぶ。 ・ 歯科衛生士の免許制度、歯科衛生士の義務についても学ぶ。						
到 達 目 標 1 行政、特に衛生行政の仕組について理解できる 2 法律の条文について正確に読み、かつ理解できる 3 医療の動向や各種統計についても関心をもち理解できる						
計画・(内容) 1 講義全体のアウトライン、学習のポイントの説明 2 法制概論（法の定義、種類など、法学の基本概念） 3 法制概論（衛生法規を中心に） 4 衛生行政の概要（行政の定義、衛生行政の目的、沿革、歯科衛生行政） 5 医療の動向（国民の健康、医療施設及び関係者の現況、各種統計） 6 歯科関係三法（歯科衛生士法、歯科医師法、歯科技工士法） 7 歯科関係三法（歯科衛生士法、歯科医師法、歯科技工士法） 8 その他の関係法規（医療法、医師法、地域保健法、その他の法律） 及び講義全体の復習（重要事項の再確認）						
教本・参考図書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度				評価方法 筆記試験（100点）		
留意事項						

教科名	社会福祉	時 期	3年 後期	担当者	寺尾 賢一	実務・一般 社会福祉士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講 義			
概 要						
・ テキストの内容や関連する制度の理解を深め、社会福祉制度と医療の社会保障制度との関連、それが患者さんの生活にどのように関連しているか理解を深めていく力を養う。						
到達目標						
1 社会保障の種類とその特徴について概説できる						
2 医療保険の種類とその法律について概説できる						
3 介護保険制度の仕組みについて概説できる						
4 年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険について概説できる						
5 歯科衛生士に関係する社会福祉制度について概説できる						
計画・(内容)						
1 オリエンテーション (社会保障・社会福祉とは何かについて)						
2 社会保障概論 (医療と福祉の連携の重要性について)						
3 社会保険 (医療保険制度の重要性について)						
4 〃 (医療保険制度の内容について)						
5 〃 (介護保険制度について)						
6 〃 (その他の社会保険制度について)						
7 社会福祉 (生活保護制度、児童福祉、高齢者福祉について)						
8 〃 (障がい者(児)福祉について/相談援助技術について)						

教科名	口腔保健管理Ⅲ	時 期	3年 前期・後期	担当者	永橋 茜 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	1 (80)	形 態	講義・実技・演習				
概 要 ・患者誘致実習・患者設定相互実習を通して、実際の歯周病の病態を診ることにより、歯周病予防についての判断・処置を行える能力を養う。 ・各々のライフステージにおける特徴を理解し、歯周病を増悪させるリスクファクターに対する歯周病予防の指導を身に付け生涯を通して人々が健康を維持・増進するための予防法を学ぶ。							
到達目標 1患者誘致実習を通して患者対応を学び、歯周病における情報収集・歯周基本検査を行い、データに基いた指導・処置ができる。 2患者設定相互実習では喫煙者・糖尿病に対する歯周病のリスクについての理解を深め、分かりやすい指導ができる。 3症例別検討では歯周病の中等度から重度の口腔内を理解し、改善に向けての指導ができる。 4高齢者の症例別検討では、口腔粘膜や歯周病の特徴に対して理解を深め、歯周病予防の指導ができる。 5災害時における歯科衛生士の役割を理解する。							
計画・(内容)							担 当
前期 1 有病者の口腔保健管理(急性期・留意すべき全身疾患) 2 認知症患者における食事観察(ミールラウンド) 3 高齢者・有病者における口腔ケア演習(状況設定における口腔ケア) 4 高齢者・有病者における口腔ケア演習(状況設定における口腔ケア) 5 高齢者・有病者における口腔ケア(口腔観察・アセスメント・ケア) 6 施設実習における集団指導(健口教室の内容検討) 7 歯科衛生介入①(1人術者での相互実習) 8 歯科衛生介入①(1人術者での相互実習) 9 災害時における歯科衛生士の役割①(歯科保健医療のためのアセスメントと支援活動) 10 災害時における歯科衛生士の役割②(検死の際に必要な知識とその方法) 後期 11 老年期における集団指導①(概要) 12 老年期における集団指導②(健口教室準備) 13 老年期における集団指導③(健口教室準備) 14 老年期における集団指導④(健口教室準備) 15 老年期における集団指導⑤(健口教室リハーサル) 16 老年期における集団指導⑥(健口教室実施-1) 17 老年期における集団指導⑦(健口教室実施-2) 18 歯科衛生介入②(歯周組織検査・学齢期における保健指導) 19 歯科衛生介入②(歯周組織検査・学齢期における保健指導) 20 歯周組織検査・学齢期の保健指導(1・3年生 合同相互実習) 21 歯周組織検査・学齢期の保健指導(1・3年生 合同相互実習) ※ 演習授業については、科目担当教員(永橋・千葉・渡邊)が指導を行う。							千葉 永橋 千葉 千葉 千葉 永橋 渡邊 渡邊 永橋 永橋 永橋 永橋 千葉 千葉 千葉 永橋 千葉 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊
教本・参考図書				評価方法			
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 最新歯科衛生士教本 歯周病学 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション				実技試験(10点×3回実施＝30点) 筆記試験(70点) 合計100点			
留意事項							
配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習の際に必要なため、指示に従い使用・保管すること 演習、グループワーク及び発表の際には、積極的に参加すること 実技の授業を欠席した場合は、後日補講を行う 忘れ物について: 白衣・器具・器材の場合は授業を受けることができない / 教科書・プリントの場合はレポート提出となる 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	口腔保健管理Ⅲ	時 期	3年 前期・後期	担当者	永橋 茜 千葉 佳鈴 渡邊 佳子	実務	歯科衛生士
単位(時間数)	1 (80)	形 態	講義・実技・演習				
概 要 ・患者誘致実習・患者設定相互実習を通して、実際の歯周病の病態を診ることにより、歯周病予防についての判断・処置を行える能力を養う。 ・各々のライフステージにおける特徴を理解し、歯周病を増悪させるリスクファクターに対する歯周病予防の指導を身に付け生涯を通して人々が健康を維持・増進するための予防法を学ぶ。							
到達目標 1患者誘致実習を通して患者対応を学び、歯周病における情報収集・歯周基本検査を行い、データに基いた指導・処置ができる。 2患者設定相互実習では喫煙者・糖尿病に対する歯周病のリスクについての理解を深め、分かりやすい指導ができる。 3症例別検討では歯周病の中等度から重度の口腔内を理解し、改善に向けての指導ができる。 4高齢者の症例別検討では、口腔粘膜や歯周病の特徴に対して理解を深め、歯周病予防の指導ができる。 5災害時における歯科衛生士の役割を理解する。							
計画・(内容)							担 当
22 地域包括会議におけるケーススタディ①							永橋
23 地域包括会議におけるケーススタディ②							永橋
24 地域包括会議におけるケーススタディ③							永橋
25 患者設定における保健指導(喫煙者・糖尿病患者に対する指導)							渡邊
26 患者設定における保健指導相互実習(喫煙者・糖尿病患者に対する指導)							渡邊
27 患者設定における保健指導相互実習(喫煙者・糖尿病患者に対する指導)							渡邊
28 グレーシーキュレットスケーラーのシャープニング							永橋
29 歯科衛生士介入③(患者設定における1人術者での相互実習)							千葉
30 歯科衛生士介入③(患者設定における1人術者での相互実習)							千葉
31 患者設定における保健指導(実技試験)							渡邊
32 患者設定における保健指導(実技試験)							渡邊
33 患者誘致実習オリエンテーション(実習の流れ、問診票について)							千葉
34 歯科衛生介入④(模擬患者での患者誘致実習)							千葉
35 歯科衛生介入④(模擬患者での患者誘致実習)							千葉
36 グレーシーキュレットスケーラーのシャープニング(実技試験)							永橋
37 国際生活機能分類(ICFについて)							永橋
38 歯科衛生介入⑤(模擬患者での患者誘致実習)							千葉
39 歯科衛生介入⑤(模擬患者での患者誘致実習)							千葉
40 業務記録作成(患者誘致実習)							千葉
※ 演習授業については、科目担当教員(永橋・千葉・渡邊)が指導を行う。							
教本・参考図書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 最新歯科衛生士教本 歯周病学 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション				評価方法 実技試験(10点×3回実施＝30点) 筆記試験(70点) 合計100点			
留意事項 配布されたプリント及び参考資料は、予習・復習の際に必要なため、指示に従い使用・保管すること 演習、グループワーク及び発表の際には、積極的に参加すること 実技の授業を欠席した場合は、後日補講を行う 忘れ物について: 白衣・器具・器材の場合は授業を受けることができない/ 教科書・プリントの場合はレポート提出となる 演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること							

教科名	栄 養 指 導	時 期	3年 後期	担当者	佐賀 暁美	実務 ・ 一般 管理栄養士
単位(時間数)	2 (30)	形 態	講 義		渡邊 恵里	実務 ・ 一般 歯科衛生士
概 要 ・ 食物を口から咀嚼・嚥下し、各栄養素が消化・吸収され、体内で代謝されていく過程の知識を深め、疾患も含めた栄養(食事)の在り方を学ぶ。(佐賀) ・ 日本人の栄養摂取状況の実態を把握し、食事摂取基準を理解することで、食品をバランスよく組み合わせ「望ましい食生活」へと、個々にわかりやすく導くことを学ぶ。(佐賀) ・ 健康維持のために、栄養と口腔状態との重要性が近年取り上げられることから、食品(栄養素)とう蝕・歯周疾患をライフステージ別・傷病者などの特徴と結びつけながら学ぶ。(渡邊・佐賀)						
到 達 目 標 1 各栄養素の消化・吸収による代謝から、働きや健康・疾病を概説できる (佐賀) 2 食事摂取基準をもとに、日本人の食生活の問題点を理解し改善につなげることができる (佐賀) 3 傷病者・高齢者などの栄養評価と特徴を結び付けることができる (佐賀) 4 代用甘味料の種類とその特徴がわかる(渡邊) 5 栄養指導に関する国家試験関連問題が解ける (渡邊)						
計画・(内容)						担 当
1 栄養学総論 (栄養と栄養素)						佐 賀
2 栄養の基礎知識 (人体における消化・吸収作用・代謝について)						〃
3 日本人の食事摂取基準2020 (食事バランスガイド・食品成分 保健機能食品含む)						〃
4 栄養素の基礎知識 (炭水化物・たんぱく質の働きを中心に)						〃
5 栄養素の基礎知識 (脂質・ビタミンの働きを中心に)						〃
6 栄養素の基礎知識 (ミネラル・水・食物繊維の働きを中心に)						〃
7 ライフステージ別指導 (妊娠期・新生児期・離乳・乳児期・幼児期⇒食育を含む)						〃
8 ライフステージ別指導 (学童期・思春期⇒食育を含む)						〃
9 ライフステージ別指導 (成人期・高齢期⇒健康を中心に)						〃
10 日本人の食生活と疾病と栄養指導 (現代の日本人における栄養の問題点と健康づくり)						〃
11 食品とう蝕誘発性 (代用甘味料)						渡 邊
12 特別用途食品と保健機能食品						〃
13 ライフステージ別歯科保健指導(妊産婦期・乳児期・幼児期)						〃
14 ライフステージ別歯科保健指導(学齢期・青年期・成人期)						〃
15 ライフステージ別歯科保健指導(老年期)/国家試験対策						〃
教本・参考図書 最新歯科衛生士教本 ・ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 ・ 歯科予防処置論・歯科保健指導論				評価方法 ・ 筆記試験60% 【佐賀】 ・ 筆記試験40% 【渡邊】 合計 100点		
留意事項						

教科名	地域包括ケア	時 期	3年・後期	担当者	東 清美	実務・一般 主任ケアマネジャー
					佐藤 美知子	実務・一般 理学療法士
					野田 正貴	実務・一般 作業療法士
					川村 曜補	実務・一般 歯科医師
					松本 美架	実務・一般 歯科衛生士
					奥 ひろみ	実務・一般 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (15)	形 態	講義			
概 要						
地域包括ケアシステムとは、要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることが出来るよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される仕組みである。 この地域包括ケアシステムを推進するうえで、多職種の連携、協働は重要であり、そのなかで歯科衛生士としてどのように関わっていくべきかを学ばなければならない。 本科目では、地域包括ケアシステムの考えを理解し、各職種の役割と活動の実際(連携、協働)を学ぶ。						
到達目標						
1. 地域包括支援センターの機能と役割が理解できる 2. 地域包括システムにおける多職種連携について理解できる 3. 在宅歯科医療連携室の機能と役割、活動について理解できる 4. 地域ケア会議の必要性が理解できる 5. 地域における理学療法士、作業療法士の役割、活動領域を知る						
計画・(内容)						担 当
1. 地域包括ケアシステムについて、概要・地域包括支援センターの機能と役割						東
2. 地域包括ケアセンターにおける、地域で暮らす高齢者等への支援・地域づくりなどの取り組みについて学ぶ。						〃
3. 多職種連携、協働を図るうえで必要となる職種の特性を知る。 理学療法士の役割、業務や活動の実際を学ぶ。						佐 藤
4. 多職種連携、協働を図るうえで必要となる職種の特性を知る。 作業療法士の役割、業務や活動の実際を学ぶ。						野 田
5. 在宅歯科医療連携室の機能と役割について学び、地域歯科保健に携わる者としての意識を高める。 地域歯科医療に携わる中で、DVにつながる前段階でのネグレクト状態を発見できる可能性を有していると自覚する。 (15～20分 スライド) 歯科衛生士として、また地域の大人として、ネグレクトを早期発見する事で、児童が深刻な命の危険にさらされる前に注意喚起を行ったり、多職種との連携での見守りを強化するきっかけづくりができることを自覚する。 ヤングケアラーについて理解し、地域歯科医療に携わる中でその専門領域から支援を行い、同時に他機関と連携して包括的に状況を把握していくことができると自覚する。						川 村
6. 在宅歯科医療連携室における歯科衛生士の役割と、その業務の実際について、事例をもとに学ぶ。						松 本
7. 地域ケア会議の必要性和その内容、また歯科口腔保健・歯科医療に携わる専門職としての役割を学ぶ						奥
8. 地域ケア会議を演習を通して学ぶ						〃
教本・参考図書 授業ごとにプリント、資料を配布 パワーポイントを使用 DVD視聴 Key note(Mac)を使用 (i Pad持参してアップルTVにて視聴する)				評価方法 筆記試験 (80点) レポート (20点) 合計 100点		
留意事項						

教科名	診療補助Ⅲ	時 期	3年 前期・後期	担当者	渡邊恵里 三浦伸子 水口 香	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (40)	形 態	講義・実技・演習			
概 要 様々なライフステージにおける診療内容に対する介助や直接行為の基礎的な知識と技術を習得することで診療行為の集約をはかり、診療の効率化に大きく寄与することができる能力と、実践力を養う。 3年生では臨床現場で実践できる診療補助の基礎能力と国家試験に対応できる知識を身につける。 患者の身体の情報を読み取り、歯科治療に必要な臨床検査の実施内容について理解する。 高齢者の口腔の疾患状況に応じた口腔ケア・歯科訪問診療について学ぶ						
到達目標 ・高齢者の口腔内観察ができる ・高齢者のアセスメントの方法がわかる ・高齢者の口腔ケア、訓練ができる ・訪問歯科診療の意義がわかる ・補綴に使用する材料・器具がわかる ・歯科領域に必要な臨床検査の目的・役割を学ぶ ・周術期歯科診療がわかる ・ホワイトニングの方法がわかる						
計画・(内容)						担 当
前期						
1 要介護高齢者の診療補助 (口腔内観察、アセスメント、計画立案講義)						三浦・水口
2 要介護高齢者の診療補助 (口腔内観察、アセスメント、計画立案演習)						〃
3 周術期における歯科診療の補助						三浦
4 要介護高齢者の診療補助 (症例、口腔内観察、アセスメント、口腔ケア演習)						三浦・水口
5 合同授業 (口腔内観察、アセスメント、口腔ケア演習)						三浦・水口
6 合同授業 (口腔内観察、アセスメント、口腔ケア演習)						〃
7 高齢者の診療補助 (口腔内観察、アセスメント、口腔ケア演習)						三浦・水口
8 高齢者の診療補助 (口腔内観察、アセスメント、口腔ケア演習)						〃
後期						
9 訪問歯科診療(訪問診療における対応)						三浦
10 訪問歯科診療(訪問診療における対応)						〃
11 スクリーニング・間接訓練 講義、演習(口腔機能復習)						渡邊
12 スクリーニング・間接訓練 講義、演習(口腔機能復習)						〃
13 補綴の診療補助(器具・種類・ワックス・セラミックス・CAD/CAM)						〃
14 小児歯科の診療補助(クラウンフォーム・乳歯冠・行動療法)						三浦
15 ホワイトニング(講義)						三浦
16 歯科領域に必要な臨床検査(生体検査、検体検査)						渡邊
17 歯科領域に必要な臨床検査(生体検査、検体検査)						〃
18 口腔観察用機器等歯科機器						〃
19 各種スケールの確認						三浦
20 各種スケールの確認						〃
教本・参考図書				評価方法		
最新歯科衛生教本 歯科診療補助第2版				筆記試験(100点)		
最新歯科衛生教本 歯科器機						
最新歯科衛生教本 歯科材料						
※その他必要な教本がある場合は指示します						
留意事項						
配布されたプリントは、予習復習となるため、指示に従い講義時間外に必ず行うこと						
グループワーク及び発表には積極的に参加すること						
授業時間内に確認問題を行う場合あり						
忘れ物(白衣・器具・器材)をした場合、演習には参加できません						
演習前には始業点検を終了しておくこと						
演習授業を欠席した場合は、担当教員に確認すること						

教科名	臨地・臨床実習	時 期	3年	担当者	実習指導者 (登録者)	実務	歯科医師・看護師 歯科衛生士 介護福祉士																				
単位(時間数)	10(450)	形 態	実 習																								
概 要																											
歯科衛生士業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士としての必要な知識・技術および態度を身に付ける。 歯科診療所における受付業務の一連の流れを学ぶ。 最終学年での臨床実習であることを自覚し、将来への方向性を見出す。 総合病院では口腔外科治療、有病者歯科診療を見学し、その特徴や患者対応、総合病院のなかでの歯科の役割を学ぶ。 病棟実習では歯科衛生士の専門的口腔ケアの見学、多職種との連携を学ぶ。また、指導者の指示のもと粘膜ケア、残存歯のブラッシング、義歯の清掃などを実施する。高齢者施設では食事介助をはじめとした介護技術の習得とコミュニケーションについて学び、歯科衛生士の指示のもと実際に口腔ケアを実施する。																											
到達目標																											
歯科診療所 行われている治療内容と病名が理解できる 歯周病における口腔内観察ができる 幼児期、学齢期の口腔衛生指導ができる 歯科医師、歯科衛生士や他職種と協同・連携ができる プライバシーを配慮した態度で応対できる 口腔保健センター 障がい者の特徴がわかる 障がい者診療の上での注意事項、対応方法がわかる 総合病院 口腔外科の症例について説明できる 口腔外科診療の術式と準備するものがわかる 有病者診療の上での注意事項、対応がわかる 病棟実習 術前、術後の口腔機能管理、口腔ケアの流れについて説明できる(回復期、急性期、慢性期の場合もある) 指導者のもと器質的口腔ケアを実施できる 高齢者施設 状況に応じた介護・支援ができる ホスピタリティマナーを理解し、コミュニケーションをとる事ができる 口腔内の観察ができる 口腔ケアを実践できる																											
計画・(内容)																											
臨地・臨床実習 函館市内、近郊の歯科診療所での実習 函館市内、近郊の高齢者施設での実習 口腔保健センター、総合病院での実習 4月～8月 73日間 450時間 <table><tr><td>歯科診療所</td><td>1 日 約 6 時間</td><td>5 5 日間</td><td>326時間</td></tr><tr><td>高齢者施設</td><td>1 日 7 時間</td><td>1 0 日間</td><td>70時間</td></tr><tr><td>総合病院</td><td>1 日 7 時間</td><td>5 日間</td><td>35時間</td></tr><tr><td>口腔保健センター</td><td>1 日 7 時間</td><td>1 日間</td><td>7時間</td></tr><tr><td>病棟</td><td>1 日 6 時間</td><td>2 日間</td><td>12時間</td></tr></table>								歯科診療所	1 日 約 6 時間	5 5 日間	326時間	高齢者施設	1 日 7 時間	1 0 日間	70時間	総合病院	1 日 7 時間	5 日間	35時間	口腔保健センター	1 日 7 時間	1 日間	7時間	病棟	1 日 6 時間	2 日間	12時間
歯科診療所	1 日 約 6 時間	5 5 日間	326時間																								
高齢者施設	1 日 7 時間	1 0 日間	70時間																								
総合病院	1 日 7 時間	5 日間	35時間																								
口腔保健センター	1 日 7 時間	1 日間	7時間																								
病棟	1 日 6 時間	2 日間	12時間																								
教本・参考図書				評価方法																							
				歯科診療所院長 担当歯科衛生士による評価 100点 (2件の歯科医院の平均点) 取り組み(意欲・積極性)、態度 コミュニケーション 記録、基礎知識、技術 ・施設、病院、口腔保健センターの評価なし																							
留意事項																											
事前オリエンテーションがある場合は必ず参加すること。また、実習記録の提出期限を守ること。 総合病院の口腔外科手術前には症例について予習すること。また、口腔保健センター実習では事前に配布された課題を予習し、持参すること。実習期間中はアルバイトを入れず体調管理を心がけること。 欠席・遅刻・早退し実習時間が不足した場合は、公欠・忌引に関わらず補講実習を行う。合計点が60点に満たない場合は、再実習を行う。																											

教科名	歯科医療事務	時 期	3年 前期・後期	担当者	山岸 有子	実務 歯科衛生士
単位(時間数)	2 (40)	形 態	講義・演習		渡邊 佳子	
概 要						
・医療保障制度を学び、カルテの内容を理解し歯科医療事務3級の取得を目指す。						
到達目標						
1 保険の種類、負担割合が分かる						
2 カルテの内容を理解し、診療行為の流れと関連付けて理解できる						
3 病名と診療点数の解釈と応用ができる						
4 薬価、麻酔の点数計算ができる						
5 診療報酬明細書(レセプト)の記載が正確にできる						
計画・(内容)						担 当
前期						山岸・渡邊
1 保険の基礎知識(医療機関の概要・医療保険のしくみ保険者番号、被保険者証の分類について)						
医療保障制度(長寿医療、公費負担医療・保険証を使ってカルテを作成する)						〃
2 歯の基礎知識・傷病名部位、処置名等について						〃
後期						〃
3 基本診療料(①初診料、②再診料) 医学管理等(歯科疾患管理、新製有床義歯管理等)						
4 画像診断・検査関連						〃
5 処置①(う蝕処置・歯内療法・歯周病)						〃
6 処置②(う蝕処置・歯内療法・歯周病)						〃
7 処置②(歯冠修復・材料)						〃
8 処置③(歯冠修復・材料)						〃
9 処置④(手術①)						〃
10 処置⑤(手術②・麻酔)						〃
11 処置⑥ (欠損補綴、ブリッジ・義歯)						〃
12 処置⑦ (欠損補綴、ブリッジ・義歯)						〃
13 床適合・歯冠修復物及びブリッジの脱落・再装着						〃
14 修理(歯冠修復物・有床義歯)						〃
15 投薬・薬科計算①						〃
14 投薬・薬科計算②						〃
15 症例問題						〃
16 症例問題						〃
17 症例問題						〃
18 症例問題						〃
19 症例問題						〃
20 症例問題						〃
教本・参考図書				評価方法		
歯科保険請求マニュアル(医歯薬出版社)				・歯科医療事務3級試験の合格をもって		
模擬問題・過去試験問題集 (ソラスト)				可否の基準とする		
歯科診療報酬点数早見表						
レセプト用紙						
留意事項						

教科名	学級コミュニケーション	時 期	3年 前後期	担当者	永橋 茜	実務	歯科衛生士	
単位(時間数)	1 (40)	形 態	講義・演習		専任教員			
概 要								
定期試験、国家試験合格のためのクラスとしての方策を考え、目標達成のために、クラス一同で協力し合い学ぶ。 クラスメイトと交流を図り、親睦を深める。 グループワークや構成的エンカウンターを行うことにより、他者を理解することや協調性を育む。 学校行事等では最高学年としての自覚を持ちリーダーシップを発揮し、企画・運営を行う。								
到達目標								
コミュニケーションスキル、ホスピタリティマナーを身につける 円滑な人間関係を構築できる 定期試験、資格試験や国家試験にむけた計画・学習方法がわかる クラス全員が定期試験、資格試験合格にむけ協力し合い、学習する習慣を身に着ける 3年生としてリーダーシップを発揮できる								
計画・(内容)						担 当		
1 クラス・個人目標設定、(2年次の反省に基づき目標を設定する)						永橋		
2 臨地臨床実習に向けた心構え、交流会について						〃		
3 学習(国家試験にむけた年間計画・臨床実習中計画)						〃		
4 学習(臨床実習中、国家試験にむけた対策)						〃		
5 学習(臨床実習中、国家試験にむけた計画反省)						〃		
6 学習(国家試験にむけた対策見直し・計画)						〃		
7 就職①						〃		
8 就職②						〃		
9 就職③						〃		
10 学習(国家試験にむけた対策見直し・計画)						〃		
11 学習(国家試験にむけた対策見直し・計画)						〃		
12 学習(国家試験にむけた対策見直し・計画)						〃		
13 学習(国家試験にむけた対策見直し・計画)						〃		
14 学校祭①						〃		
15 学校祭②						〃		
16 学習(冬休み前国家試験にむけた計画・対策)						〃		
17 状況に応じたSL(その時期に必要なと思われる内容を実施する)						〃		
18 状況に応じたSL(その時期に必要なと思われる内容を実施する)						〃		
19 国家試験に向けて						〃		
20 卒業に向けて						〃		
※内容により担当、順序が替わること有り								
教本・参考図書				評価方法 定期試験 なし 単位修得の為の出席確認				
留意事項								
国家試験合格を目標とし、達成に向けて計画的に行動すること。 グループワーク及び発表には積極的に参加すること。 行事では積極的に行動し、楽しむこと。また、全員が楽しめるよう周囲の状況をよく観察し工夫すること。 学校行事の準備は全員で協力し合うこと。								

教科名	課題研究	時 期	3年 後期	担当者	奥 ひろみ	実務・一般 歯科衛生士
単位(時間数)	1 (30)	形 態	講義		専任教員	実務・一般 歯科衛生士
概 要						
歯科衛生の実践に根ざした学術研究は、歯科衛生業務を確立し、発展させるために欠かせないことである。歯科衛生研究の目的である、歯科衛生業務に関する疑問・課題について研究し、知識や理論を導き出すことについて、その方法や手順、留意点を理解したうえで研究成果の発表までをグループとして取組むことにする。 なお、授業は2年後期～3年前期まで継続して学び、準備、研究、まとめ、発表と進めていく。						
到達目標						
1. 問題解決のための専門知識が深まる 2. 自発的、創造的な学習態度が備わる 3. 研究の手順や方法が分かる						
計画・(内容)						
1. 研究計画書をもとに、進行手順や使用機材の準備など、研究のスケジュールをたてる 2. 研究計画書をもとに、進行手順や使用機材の準備など、研究のスケジュールをたてる 3. 研究の進捗状況の確認および計画の調整 4. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 5. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 6. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 7. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 8. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 9. データ収集、実験、分析などグループごとの計画に沿って進行 10. プレゼンテーションの要領説明と、抄録・スライドの作成について 11. 抄録・スライド作成 ・ 提出 12. クラス内プレゼンテーション 13. 課題研究発表会 14. 課題研究発表会 15. 授業のまとめ・振り返り						
教本・参考図書				評価方法		
看護研究論文の書き方（照林社）				課題研究発表会における専任教員による採点		
留意事項						
臨地臨床実習をはさむため、計画的に実施すること						

教科名	総合講義	時 期	3年 後期	担当者	各 教 科 担 当 教 員
単位(時間数)	4 (120)	形 態	講 義		
概 要					
国家試験対策として1、2年次に履修した科目の復習を行う。 授業は、国家試験の出題傾向を促えた内容であり、重要ポイントの確認や例題の解説を中心に行う。					
到 達 目 標					
1 国家試験に出題されるポイントがわかる 2 国家試験過去問題や例題が解ける 3 国家試験に対応できる学力をつける					
計 画 ・ (内 容)					担 当
口腔解剖	2回	国家試験対策、まとめ、例題			岩 井 祐 ・ 加 藤
口腔生理	1回	〃			深 瀬
口腔生化学	1回	〃			鍋 谷
病理学	2回	〃			勝 又 謙 ・ 富 樫
微生物学	2回	〃			鍵 谷 ・ 澤 辺
薬理学	2回	〃			熊 川 ・ 林
口腔リハビリテーション	1回	〃			野 村
摂食嚥下	1回	〃			伊 藤
保健生態学Ⅱ	3回	〃			奥 ・ 岩 井 祐
衛生統計	1回	〃			岩 井 祐
歯科衛生士総論	1回	〃			澤 谷
歯内療法	2回	〃			岩 井 宏 ・ 福 田
保存修復	2回	〃			鈴 木 ・ 平 田
矯正歯科	2回	〃			大 内 ・ 勝 又 茂
歯科補綴	2回	〃			北 條 ・ 額 賀
小児歯科	1回	〃			本 間
歯周疾患	2回	〃			石 塚 ・ 光 銭
口腔外科	2回	〃			白 石 ・ 村 田
放射線	1回	〃			中 川
障がい者歯科	1回	〃			藤 巻
高齢者・有病者歯科	2回	〃			佐 藤 ・ 山 岸
口腔保健管理	16回	〃			永 橋 ・ 千 葉 ・ 渡 邊
診療補助	10回	〃			三 浦 ・ 渡 邊
教 本 ・ 参 考 図 書				評 価 方 法	
・ 各科目の教本 ・ 2024版徹底分析 年度別歯科衛生士国家試験問題集 ・ 国試の麗人 (DES歯科衛生士部) ※各担当教員の指示に従う				単位認定試験220点満点のうち132点以上を合格とする	
留 意 事 項					
・ 配布されたプリントは指示に従い適切に保管すること ・ 課題やプリント提出は期日を厳守すること ・ 進行は時間割を確認すること					